

会長のページ (株)ジェイエフーズみやざきとの事業連携協定	稲倉 正孝	3
日州医談 在宅医療の推進と多職種協働	牛谷 義秀	4
エコ・リレー(453)	鈴木 良彦, 森山 重人	7
メディアの目 「U -doki」ヒューマン～緩和ケア 宮崎県人の優しさ～	河野 真	10
国公立病院だより(高千穂町国民健康保険病院)	箕田 誠司	14
宮崎大学医学部だより(臨床神経科学講座脳神経外科学分野)	横上 聖貴	16
専門分科医会だより(透析医会)	藤元 昭一	17
医師国保組合だより 歩こう会に感謝 歩かずに唄いました	石川 智信, 石川万佐子	27
ニューメンバー	大塚 伸昭, 帖佐 宣昭, 中村 雄	46
診療メモ 命をつなぐドクターヘリ	金丸 勝弘	64

宮崎県感染症発生動向	8
あなたできますか?(平成23年度医師国家試験問題より)	11
各都市医師会だより	12
薬事情報センターだより(312) 新薬紹介(その62)	18
九州医師会連合会第33回常任委員会	19
九州ブロック日医代議員連絡会議	20
平成24年度都道府県医師会医療関係者対策担当理事連絡協議会	22
医師国保組合だより	28
日医インターネットニュースから	32
理事会日誌	34
ベストセラー	40
県医の動き	41
追悼のことば	42
会員の異動・変更報告	47
ドクターバンク情報	51
行事予定	55
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会	57
あ と が き	70

お知らせ 第14回宮崎県医師会医家芸術展作品募集!	6
宮崎県医師会役員等の補欠選挙のご案内	26
宮崎県医師会・医師国保組合・医師協同組合事務局職員配置	31
クールビズについて	49
「はまゆう随筆」原稿募集	50
平成25年度春季県医師テニス大会開催のお知らせ	66
宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ	66
郡市医師会への送付文書	68
告知 第15回宮崎県医師会定例代議員会開催	30
ご案内 平成25年度第7回宮崎県医師会総会	30

医師の心得

- 1 . 私たちは、皆さまの健康状態をよくお聞きします。
- 2 . 私たちは、皆さまに最善の医療を提供できるよう心がけます。
- 3 . 私たちは、皆さまに医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
- 4 . 私たちは、皆さまの「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
- 5 . 私たちは、皆さまの健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成 14年 3月 12日制定)

〔表紙作品 写真〕

青 × 赤

写真における色の組み合わせというと様々なパターンがありますが、青空の下では赤や白といった色が特に目立って映ります。

箱根の玄関口を駆ける真っ赤な小田急電鉄の普通電車、見た瞬間に思わずシャッターを切りたくなる、そんな一枚です。

東京都 き きぬき 木佐貫 とう せい 冬 星

会長のページ

(株)ジェイエイフーズみやざきとの事業連携協定

いな くら まさ たか
稲 倉 正 孝

新聞，TV，週刊紙等で食品による健康被害が相次いで報道されている。残留農薬・化学肥料の問題，製造過程・保管の不備に基づく黴の増殖・異物の混入・食材の変質，遺伝子組み換え食品に対する不安など「食」に対する人々の関心は著しく高まっている。

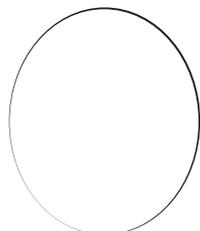
国民の健康と医療に深く携わり，重い責任を負う医師の立場からも「食の安全・安心」には重大な関心がある。医療においても「食」は非常に大切な要素である。人の身体を構成する無数の細胞は，日々生まれ変わっており，

その再生材料の源が食物であり，人間の活動エネルギーの源も食物である。また，3度の食事で「美味しいもの」を食することは人生の最大の喜びの1つであり，五感を満足させ，脳を活性化し，身体をリフレッシュする働きがあり，「明日への希望と活力」が生まれる原動力になる。

(株)ジェイエイフーズみやざきは，最新式の設備で，地元産の材料を使って，「安全・安心」に徹底的にこだわって，ホウレンソウ，サトイモ，オクラなど10種類以上の宮崎県産冷凍野菜を製造している。これまで，病院・有床診療所・介護関連施設では，冷凍野菜は保管設備の容量などから長期保存が困難であった。これが，宮崎県産冷凍野菜の使用が普及しなかった大きな理由の1つであった。この度，食品卸売業の晴峰商事株式会社，黒木食品株式会社の協力を得て，少量の食材でも各施設に頻繁に配達できるようになった。妊婦・乳幼児・健康に問題を抱えておられる方に提供するには，最適の野菜であり，食してみると味も美味である。調理も簡単で生ゴミがほとんど出ない。まず，始めに土曜・日曜・祭日・年末年始など人手の不足する時，収穫の端境期などに利用することをお薦めする。東日本・関東地方に在住の子弟・知人に送れば喜ばれること間違いなし。

宮崎県医師協同組合と(株)ジェイエイフーズみやざきは，「安全・安心な宮崎県産食材」を病院・医院・施設等の皆様へ提供することにより，「患者・入所者の皆様の健康と家族の皆様の幸せ」を願うとともに，宮崎県の医療と農業を核としたフードビジネスの発展をめざして業務連携を進めることになりました。2013年4月25日，河野俊嗣宮崎県知事立会いのもと，晴峰商事株式会社，黒木食品株式会社とともに(株)ジェイエイフーズみやざきと事業連携協定を結びました。本事業連携協定のkey wordは「安全・安心」，「地産・地消」，「地域・連携」であり，この協定が発展し，県民の健康と幸せに貢献できることを祈念すると共に，会員各位におかれましても，「医」に於ける「食」の重要性について再考する契機となれば幸いです。（平成25年4月30日）

日州医談



在宅医療の推進と多職種協働

常任理事 ^{うし}牛 ^{たに}谷 ^{よし}義 ^{ひで}秀

はじめに

昭和 40年代，ハネムーンの聖地として賑わった宮崎，近年では宮崎市の中心を流れる大淀川の周囲に新築のマンションが増え，大都市から移り住む「リタイア組」も増えている。宮崎に憧れた世代が思い出の地「宮崎」に終の棲家を求める人も多いと聞くが，今「老後」の問題はやはり大きな話題となっている。宮崎大学医学部附属病院では昨年 4月に救命救急センターがオープンし，ドクターヘリによる救急対応が始まるなど，急性期医療の整備が進みつつあるが，患者の受け皿となる環境整備は遅滞している感が否めない。退院は単なる場所の移動ではなく，「その人がどう生きたいか」を支援することであり，在宅医療が展開されるいづこの場所でも患者の安心・安全を提供するための積極的な医療が要求されている。

患者の安心・安全のために取り組むべきは，地域医療を底上げする医療と介護の多職種間の連携であり，そこに関わる多職種間の連携強化であることに疑いの余地はない。質の高い在宅医療を実現するためには医師だけでなく，看護師，ケアマネなど様々な職種の強い連携が重要になる。しかし，職種間，特に「医師」と「その他の職種」の間にある「言葉にできない壁」の存在が，スムーズな連携の妨げになっているケースは少なくない。それはそのまま，患者や家族の満足度の低下に直結すると考えられる。

在宅医療を推進するため，国は 2012年を「在宅

医療元年」と位置づけ，病気や障害を持ちつつも可能な限り住み慣れた場所で自分らしく過ごす「生活の質」を重視した方向性を示し，多職種協働による在宅医療の支援体制を構築し，医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指すこととした。

在宅医療・介護の連携を推進する背景

病院と同じように，自宅で点滴や輸血を受けたり，在宅酸素・人工呼吸療法などの呼吸補助療法，在宅中心静脈栄養療法・経管栄養法などの栄養補助療法といった医療技術を受けている人は年々，増加している。終末期の患者へのアンケート調査で，「自宅で療養して，必要になれば医療機関等を利用したい」と回答した人の割合は 60%以上に上り，国民の多くが「自宅で療養したい」と回答した。また，要介護状態になっても，自宅や子ども・親族の家での介護を希望する人が 4割を超えた。しかしながら，地域における医療・介護の関係機関の連携が重要であるにも関わらず，現状では訪問診療を提供している医療機関や訪問看護ステーションの数も十分とは言えない，後方支援ベッドの確保が困難である，連携体制の構築や人材育成などの環境整備が進んでいないなど，課題は山積しており，その解決のためには地域包括ケア体制の確立が何よりも急務である。

地域包括ケア体制の確立

在宅包括ケアを実現するためには，30分程度でかけつけられる日常生活圏域で，次に示す 5

つの視点による取組みが利用者のニーズに応じて包括的に、また入院・退院・在宅復帰を通じて切れ目ないサービスが継続的に提供されることが必須となる。5つの視点とは、医療との連携強化、介護サービスの充実強化、予防の推進、見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など、高齢期になっても住み続けることのできるバリアフリーの高齢者住まいの整備(国交省)であり、この組み合わせが重要となる。具体的な連携として、定期的に訪問診療を実施する地域の医療機関、急変時に入院受け入れが可能な在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院(以下、在支診・在支病)、服薬管理や褥瘡の予防、浣腸等の看護ケアを提供する訪問看護事業所、また入浴、排泄、食事等を支援する介護サービス事業所、これら関係機関の多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できる体制を構築する必要があり、そのためには地域の医師会等と市町村が中心となって、緊密に連携しながら、地域の関係機関の連携体制の構築を図ることが重要となる。

「施設」から「地域へ」、「一医療機関完結型の医療」から「地域完結型の医療・介護へ」

わが国は国民皆保険のもと、女性の平均寿命は86歳(世界1位)、男性80歳(同2位)を実現するなど、世界でも類を見ない高水準の医療・介護制度を確立してきた。しかしながら、入院医療・施設介護を中心にして裏打ちされた実績であり、平均入院期間はアメリカの5倍、ドイツの3倍となっている。また自宅で死亡する人の割合は、1950年の80%から1976年を境に逆転し、2010年は12%にまで低下した。死亡者数は2008年、全国で約114万人であり、2035年頃にかけて169万人に達するものと見込まれている。今後、自宅が病室、道路が病院の廊下となり、訪問する医師が病棟医師、訪問看護師が病棟看護師、電話がナースコールと同じようになるよう、地

域における医療と介護の連携の仕組みの道筋を拓くことが急務である。また、平成24年度の診療報酬改定で機能強化型の在支診・在支病が新設された。しかしながら、機能強化型を推進するだけでなく、一般診療所や従来型在支診がいかに無理なく訪問診療に参入できるようにするかが鍵と言える。緊急時の入院・入所施設の確保、24時間体制に協力可能な医師の確保などの問題解決が急がれる。

宮崎県医師会在宅医療協議会の誕生

これから外来通院できる患者が減り、否応なしに訪問診療を必要とする高齢者が増えてくることは想像に難くない。昨今、有料老人ホームなど、急速に高齢者の住環境の整備が先行し、そこに住まう人々への医療的支援が遅れている。宮崎県医師会在宅医療協議会は、病や老いを抱えても最期まで地域で暮らしたいと願う人達へ積極的な在宅医療を提供することをコンセプトに発足した。在宅医療における医療者の負担が大きいという懸念が実際よりも誇張されて伝わり、また高い専門性をもって開業されている先生が多いため、地域医療の現場で専門外の科にわたって患者を診ることに抵抗感を持たれているためか、訪問診療を実施される先生方の数は伸び悩んでいる。看取り以外の緊急の対応は訪問看護師で解決できる場合が多い。多職種協働の良さは、「ひとりでできないことも、チームならできる」というところにある。チーム医療の大切さを知り、顔の見えるつながりを持つことで、真に機能するチームとなる。多職種協働を運用することで達成しうる在宅医療の醍醐味は、一度味わえば、その心地良ささえ体感できると称賛する医師も多い。今後は、在宅医療に関心を持って下さる先生がもっと増えて医師同士の連携がますます深まり、少数の医療機関に集中することなく、無理なく安心して在宅医療が展開できる環境を整備することが重要となるであろう。

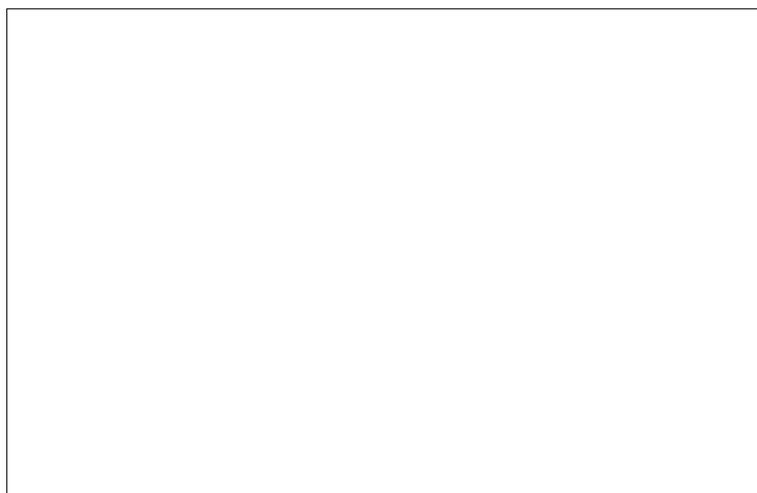
お知らせ

第 14回 宮崎県医師会 医家芸術展 作品募集！

「優秀な作品を一同に展示し、作品を通じて交流を図ると共に、創作する喜びや鑑賞する楽しさを味わえる開かれた芸術展」を目標に、平成 12年から始まった宮崎県医師会医家芸術展は、本年で第 14回を開催する運びとなりました。

おかげさまで、昨年は 44名の方々から 119点のご応募をいただきました。各作品部門におきまして充実した作品が揃い、素晴らしい展覧会となりました。また、入場者は 5日間で 1,451人を数え、年々県民の間にも浸透しつつあるようです。

今年も県立美術館の県民ギャラリー 1 及び 2 を確保して、下記の要領にて作品を募集いたします。会員及びご家族のご出展を心よりお待ちしております。



(前回会場風景)

展示期間：平成 25年 8月 13日(火)～ 18日(日) (6 日間)

場 所：宮崎県立美術館 2 F 県民ギャラリー 1・2

応募作品：書道、絵画、写真

応募資格：宮崎県医師会会員及び家族(高校生以上)

応募方法：出品希望の方は応募用紙を送付しますので、下記までご連絡ください。出品者名、出品部門、作品の点数・大きさ等必要事項をご記入いただきます。

作品の搬入・搬出につきましては、各自の責任のもとでお願いいたします。

応募締切：6月 8日(土)

応 募 先：宮崎県医師会 学術広報課

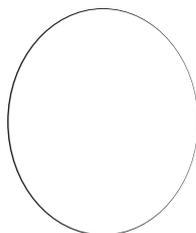
TEL 0985-22-5118・FAX 0985-27-6550

エコー・リレー

(453回)

(南から北へ北から南へ)

航空身体検査

宮崎市 すずき内科クリニック ^{すずき}鈴木 ^{よしひこ}良彦

月並みではあるが、子どもの頃の夢はパイロットになることだった。しかし頭の問題はさておき、目に問題があり今は医師となっている。

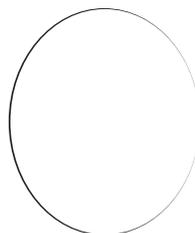
そんな私であるが、4年ほど前から航空身体検査という検診に取り組んでいる。一般のドクターにはなじみのないものであるが、要はパイロットの検診である。飛行機のライセンスは基本的に終身制であり、自動車のように更新もない。しかしライセンスとともに“航空身体検査証明書”という、いわゆる“健康ライセンス”を持っていないと飛べない仕組みになっている。この健康ライセンス、有効期限が半年～1年であるため、航空会社で定年まで働くにはざっと5回の検診に合格し続けなくてはならない。受検するパイロットもたいへんであるが、見方を変えれば医学は航空の安全をも担っているのである。

通常、我々医師は厚生労働省の管轄下に業務を行っているのだが、“航空身体検査指定医”は国土交通省の指導下にあり、ちょっぴり勝手が違うがそれをご愛敬。ときどきそれなりの指導を受けるが、逆に苦情等あれば正々堂々と霞ヶ関に電話をする。“宮崎の鈴木です”...と。

最近では宮崎ばかりでなく他県のパイロットも足を運んでくれ、“現場の裏話”を聞かせてくれる。他分野の方々とコミュニケーションをとるのは新たな発見があって楽しいし、医師としてこのような分野で社会貢献できることによるこびと責任を感じる今日この頃である。

〔次回は、小林市の田中 充先生にお願いします〕

脱出ゲーム

宮崎市 もりやま眼科 ^{もりやま}森山 ^{しげと}重人

最近、私が家族と共に熱中しているのば「リアル脱出ゲーム」です。これは数人のチームでいろいろな謎を解いて脱出するゲームイベントです。いわゆる遊園地やテーマパークにある幽霊屋敷や迷路のように、実際に歩いて脱出する体

を使うゲームではなく、イベントが開催される会場にあるさまざまなアイテム、暗号、パズルを解き、制限時間内に最後の答えに到達すれば脱出成功、という頭を使うゲームです。これまで、5回参加しましたが、一度だけ脱出のほんの手前までたどり着いたのですが、いずれも脱出失敗に終わりました。最後に参加したゲームでも40チームのうち脱出できたのはたったの1チームで、他の参加者から大きな拍手と羨望のまなざしを受けていました。問題が解けたときは知的興奮を覚えるのですが、あまりに難しく問題が解けないと思えば思考停止し脳が活動を止めてしまうのが分かります。同じチームになった若い方は思考停止せず諦めずにグイグイ問題を解いていくので、自分の頭が固くなったことを思い知らされます。また問題もひらめきが必要なものや論理的に考える必要があるものなど、よくこんな問題を考えたな、と出題者に感心してしまいます。

スマートフォンのアプリケーションやゲームブックも発売されており、いずれも楽しめます。

これまで大都市でしか開催されていなかったのですが、人気が出てきたためか、地方都市でも開催されるようになり、今年の秋には宮崎でも開催される予定です。今度こそ脱出し、みんな脱出の喜びを味わいたいと思っています。

〔次回は、延岡市の平嶋 佑子先生にお願いします〕

宮崎県感染症発生動向 ～ 3月～

平成 25年 3月 4日～平成 25年 3月 31日(第 10週～13週)

全数報告の感染症

- 1 類：報告なし。
- 2 類 結核 20例が報告された。保健所別報告数を【図 1】に示した。患者が 13例，無症状病原体保有者が 7例で，患者は肺結核が 1例，その他の結核 腸結核，結核性網脈絡膜炎 が 2 例であった【表 1】。男性 11例・女性 9 例で，年齢別報告数を【表 2】に示した。
- 3 類 報告なし。
- 4 類 ○レジオネラ症 宮崎市保健所から 1 例報告された。患者は 60歳代で肺炎型。主な症状は咳嗽，呼吸困難，意識障害，多臓器不全，肺炎が見られた。
- 5 類：○アメーバ赤痢 宮崎市保健所から 1 例報告された。患者は 50歳代で腸管アメーバ症。主な症状は，下痢がみられた。
 - 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 日南保健所から 1 例報告された。患者は 50歳代でショック，腎不全，DIC がみられた。血清群は A 群。
 - 風しん 宮崎市(2 例)，都城(1 例)保健所から報告された。
 - ・ 30歳代の男性で検査診断例。発しん，発熱，リンパ節腫脹，関節痛・関節炎がみられた。ワクチン接種歴は不明。
 - ・ 40歳代の女性で検査診断例。発しん，発熱，リンパ節腫脹がみられた。ワクチン接種歴は不明。
 - ・ 40歳代の男性で検査診断例。発しん，発熱，頭痛がみられた。ワクチン接種歴はなし。

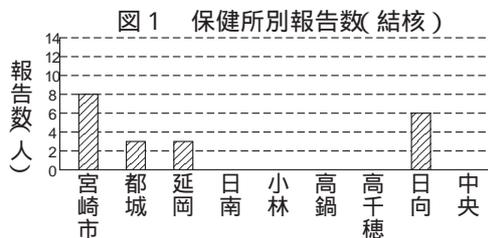


表 1 結核の病型及び報告数(人)

肺結核	11
その他の結核	2
無症状病原体保有者	7

表 2 結核の年齢別報告数(人)

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	70歳代	80歳代
1	3	1	2	5	8

5 類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は 6,461人(定点あたり 152.7)で，前月比 7%と減少した。また，例年と比べると 101%と同程度であった。

前月に比べ大きく増加した疾患はなかった。減少した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎であった。また，例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患はインフルエンザと咽頭結膜熱であった。

インフルエンザの報告数は 3,199人(54.2)で前月の約 7割，例年の約 1.5倍であった。小林(106.6)，日南(83.6)，延岡(75.3)保健所からの報告が多く，年齢別では 5 歳以下が全体の 27%，6～9 歳が 27%，10～14歳が 29%，15～19歳が 4%，20歳代～50歳代が 14%，60歳以上が 3%を占めた。

咽頭結膜熱の報告数は 127人(3.5)で前月の約 8割，例年の約 1.6倍であった。日南(9.0)保健所からの報告が多く，年齢別では 1～4 歳が全体の約 7割を占めた。

前月との比較

	2015年 3月		2015年 2月		例年との比較
	報告数(人)	定点当たり(人)	報告数(人)	定点当たり(人)	
インフルエンザ	3,199	54.2	4,841	82.1	
RSウイルス感染症	147	4.1	188	5.2	
咽頭結膜熱	127	3.5	158	4.4	
溶レン菌咽頭炎	340	9.4	369	10.3	
感染性胃腸炎	1,910	53.1	2,423	67.3	
水痘	467	13.0	491	13.6	
手足口病	8	0.2	5	0.1	
伝染性紅斑	10	0.3	6	0.2	
突発性発しん	131	3.6	126	3.5	
百日咳	2	0.1	0	0.0	
ヘルパンギーナ	7	0.2	11	0.3	
流行性耳下腺炎	55	1.5	70	1.9	
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	51	8.5	58	9.7	
細菌性髄膜炎	2	0.3	0	0.0	
無菌性髄膜炎	1	0.1	1	0.1	
マイコプラズマ肺炎	4	0.6	4	0.6	
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	

例年同時期(過去 3年の平均)より報告数が多い A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

病原体検出情報(微生物部)

検出病原体		件	臨床症状等
細菌	腸管出血性大腸菌(O 111 HUT VT1,2)	6	・発熱(37.3), 下痢, 血便 ・無症状 ・EH EC 疑, 腹痛, 水様性下痢 等
	腸管出血性大腸菌(O 115 H 10 VT1)	1	・無症状
	腸管出血性大腸菌(O UT H 21 VT 2)	1	・無症状
	Salmonella Choleraesuis(O 706) c 1,5)	1	
	Bordetella pertussis(百日咳菌)	1	・気管支炎, RSV (+)
ウイルス	インフルエンザ A H 3型	3	・A型インフルエンザ, 39.6 , 上気道炎 等
	エコーウイルス 18型	2	・ウイルス感染症疑い, 38.0 , 発疹, 胃腸炎 ・ウイルス感染症疑い, 39.0 , 発疹
	RSウイルス	1	・RSウイルス肺炎, 39.5 , 下気道炎
	風疹ウイルス	2	・麻疹疑い, 39.5 , 関節痛, 上気道炎, 丘疹, 結膜炎 ・発熱(37.4), 発疹

月報告対象疾患の発生動向 3月

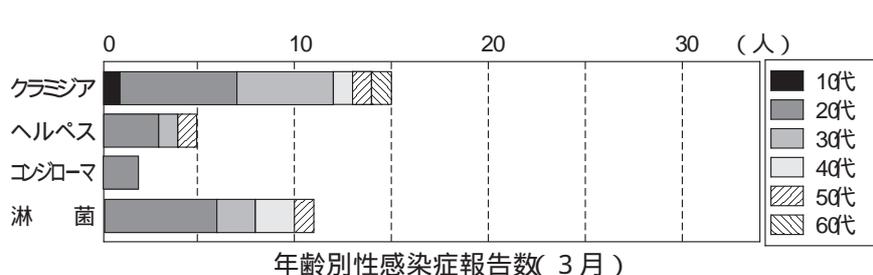
性感染症

【宮崎県】定点医療機関総数 13

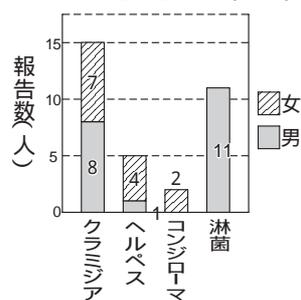
定点医療機関からの報告総数は33人(2.5)で, 前月比 103%と横ばいであった。また, 昨年3月(2.5)と同程度であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症 報告数 15人(1.2)で, 前月の約 1.1倍, 前年の約 7割であった。20歳代が全体の約 4割, 30歳代が約 3割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症 報告数 5人(0.38)で, 前月の約 6割, 前年の約 1.7倍であった。20歳代が 3人, 30歳代・50歳代がそれぞれ 1人であった。
- 尖圭コンジローマ 報告数 2人(0.15)で, 前月及び前年と同程度であった。どちらも 20歳代であった。
- 淋菌感染症 報告数 11人(0.85)で, 前月の約 1.6倍, 前年の約 1.8倍であった。20歳代が全体の約 6割を占めた。



男女別性感染症報告数(3月)



薬剤耐性菌

【宮崎県】定点医療機関総数 7

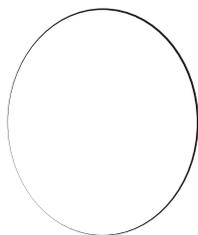
定点医療機関からの報告総数は30人(4.3)で前月比 59%と減少した。また, 昨年3月(4.7)の約 9割であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 報告数 29人(4.1)で, 前月の約 6割, 前年と同程度であった。70歳以上が全体の約 7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 報告数 1人(0.14)で, 前月及び前年の約半数であった。60歳代の報告であった。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症 報告はなかった。
- 薬剤耐性アシネトバクター感染症: 報告はなかった。

(宮崎県衛生環境研究所)

メディアの目

「U -doki」ヒューマン
～ 緩和ケア 宮崎県人の優しさ～

テレビ宮崎報道制作局 局次長兼報道部長

かわ の まこと
河 野 真

昨年 4 月より毎週土曜日の夕方に放送を開始しました「U -doki」は、1 年経過したところです。この番組は、県民密着で地域貢献も意識した宮崎の「情報」にこだわり、週末に家族と一緒に見て話題になるニュース情報番組を目指しています。

この「U -doki」内で、各業界で活躍されている宮崎県出身者を紹介するコーナー「ヒューマン」を企画取材放送しています。今までにイラストレーター 上杉忠宏さん(延岡市出身)、テノール歌手 内之倉勝哉さん(小林市出身)、漫画原作者 やまさき十三さん(都城市出身)、漫画家 赤星たみこさん(日之影町出身)など 9 名を紹介し、出演者の仕事の様子やその想いを伝えてまいりました。

昨年「ヒューマン」の中で聖路加国際病院の緩和ケア科 都城市出身の林章敏医師を紹介しました。「緩和ケア」は、一般的には「死」に近い患者の治療にあたると思われ終末医療と認識されています。しかし、番組内で林先生は、「『緩和ケア』は患者の痛みや苦痛、そして心の辛さを和らげ命を支える医療」と表現し、「痛みをとり和らげることだけが目的でないことを自分に心してあっている」と語りました。また、早期より

「緩和ケア」と関わった患者と普通に終末期より関わった患者の命の長さの違いも示しました。末期の患者を対象に治療を施す医療ではなく、早期より患者と向き合う治療を目指していて、いつかは死を迎えるがそこで終わりではなく、その中でいい橋渡しやいい旅立ちとして見送ることが大切。技術で痛みや苦痛を和らげるが、それだけでは苦痛の中で早く自分の人生を終えたいとってしまう。そのために患者に十分な時間で語らい寄り添うことで心の辛さを和らげたいと語りました。「緩和ケア」は「死」に近い患者の治療医療の側面のみ認識していた私は、非常に印象に残り感銘を受けました。林先生の、精神面からも患者を支え最後まで患者に寄り添い続け見とどける姿、語り口は穏やかで優しく柔らかくその人柄に引き込まれました。

林先生は「緩和ケア」の領域に興味を持ったのは宮崎で生まれ育ったからではないか、さりげなさや助け合う気持ちが自然にできる宮崎で生まれ育ったことは財産で原点ではないかと語りました。私は、宮崎県民が本来持っているホスピタリティあふれる精神、優しさをもとに心の辛さを和らげる宮崎県出身の「緩和ケア医療者」がますます増える事を期待したいと思います。



あなたできますか？

平成 23年度 医師国家試験問題より

(解答は 69ページ)

- クラミジア感染症が原因となるのはどれか。2つ選べ。
 - 不妊症
 - 子宮頸癌
 - 骨盤腹膜炎
 - 子宮内膜症
 - 尖圭コンジローマ
- 近年の我が国における悪性新生物死亡に関する動向で正しいのはどれか。
 - 全がんの年齢調整死亡率は上昇している。
 - 全がんの死亡者数は年間 30万人を超えている。
 - 全がんの死亡者数は死亡全体の 50%を超えている。
 - 胃がんの年齢調整死亡率は上昇している。
 - 女性の乳がんの年齢調整死亡率は低下している。
- 平成 19年国民生活基礎調査の項目で、高齢者が要介護となる原因として最も頻度が高いのはどれか。
 - 関節疾患
 - 高齢による衰弱
 - 骨折・転倒
 - 認知症
 - 脳血管疾患(脳卒中)
- 放射線感受性の比較で正しいのはどれか。ただし、「A > B」はAがBよりも放射線感受性が高いことを示す。
 - 腺癌 > 扁平上皮癌
 - 神経細胞 > 骨髄細胞
 - 分化した細胞 > 未分化な細胞
 - 細胞周期 S 期 > 細胞周期 M 期
 - 酸素分圧が高い組織 > 酸素分圧が低い組織
- 我が国の将来推計人口で、2025年に現時点よりも増加していることが予想されるのはどれか。2つ選べ。
 - 総人口
 - 年少人口
 - 老年人口
 - 従属人口指数
 - 生産年齢人口
- 51歳の男性。特定健康診査の結果、薬物治療の要否について医師の判断を求める必要があると判定された。特定健康診査の結果を示す。

身長 168cm, 体重 70kg, 腹囲 88cm。血圧 156/82mmHg。血液生化学所見 空腹時血糖 102mg/dl, トリグリセリド 152mg/dl, HDLコレステロール 45mg/dl, LDLコレステロール 124mg/dl(基準 65~139)
- 医療機関受診を勧奨する根拠となった項目はどれか。
 - 血圧
 - 空腹時血糖
 - トリグリセリド
 - 総コレステロール
 - HDLコレステロール
- 83歳の男性。3日前に転院してきた。1か月前にオートバイと接触し、左大腿骨骨折と左橈骨骨折とを受傷したが、順調に回復し、リハビリテーション目的で転院となった。転院直後から、夜間せん妄が出現していた。本日、看護師が階段の踊り場で心肺停止状態となっている患者を発見した。医師が死亡確認し検索したところ、頭部に出血を伴う皮膚損傷を認めた。

対応として適切なのはどれか。

 - 監察医に連絡する。
 - 保健所に届け出る。
 - 死亡診断書を作成する。
 - 所轄の警察署に届け出る。
 - 医療安全支援センターに届け出る。
- 院内感染のリスクとなりにくいのはどれか。
 - 褥瘡処置
 - 持続導尿
 - 腰椎穿刺
 - 人工呼吸
 - 中心静脈栄養
- 78歳の男性。尿が出なくなったことを主訴に来院した。3日前に頭痛と咽頭痛とを自覚し、自宅近くの診療所で感冒薬を処方された。昨晩から尿がたらずとしか出なくなり下腹部痛を認めたため、受診した。身長 165cm, 体重 60kg。体温 36.0℃, 脈拍 64/分, 整。血圧 156/80mmHg。下腹部は膨隆し、直腸指診で鶏卵大の前立腺を触知する。腹部超音波検査所見上、膀胱は多量の尿で拡張している。

現時点の対応として適切なのはどれか。

 - 導尿
 - 膀胱穿刺
 - 尿道ブジー
 - 膀胱鏡検査
 - 利尿薬の投与
- 放射線の職業被ばくや公衆被ばくの線量限度に用いる単位はどれか。
 - キュリー(Ci)
 - グレイ(Gy)
 - シーベルト(Sv)
 - ベクレル(Bq)
 - レントゲン(R)

各都市医師会だより

日向市東臼杵郡医師会

地域医療を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。このような中、平成 24 年度から行政が中心となって活動するようになった「日向市の地域医療を考える会」主催のフォーラムが 3 月 17 日(日曜日)に日向市中央公民館において市民 250 名の参加のもと開催されました。

当日は、全国の自治体病院の再生に携わっておられる城西大経営学部の伊関友伸教授が講演されました。先生は、医師不足の原因について国民の医療についての不理解、医療の高度化・専門化、劣悪な労働環境、患者のコンビニ医療志向等を挙げられ詳しく説明をされました。最後に地域医療を守るためには、地域住民と医師が信頼し合い、互いの立場を理解する「共感」の気持ちが必要であると強調されました。

医師会も地域医療の現況を説明する時間をいただきました。医師不足の現状を説明した後、更なる医療崩壊を防ぐために、平日の診療時間内の受診の厳守、午後 7 時以降は初期救急診療所での受診、タクシ - 代わりに救急車を利用しないこと、かかりつけ医を持ち早めの受診をすること、の 4 点を心がけるようお願いしました。

この程、今回フォーラムで配られたアンケートの集計結果を見せていただきました。感想・意見の中で、ほとんどの人が医師偏在による医師不足の現状を理解していなかったこと、地域医療を守るために市民一人ひとりが何をしなければいけないか気づかされたこと等を記述されておられました。また、継続してこのような会の開催を要望されている人も沢山おられました。今回のフォーラムに参加して、住民の地域医療への関心の高さを伺い知ることができ、改めて情報発信の必要性を感じたところです。(渡邊 康久)

◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇ ◇◇

児 湯 医 師 会

先日、東九州自動車道が都農町まで開通しました。川南通過時の景観は圧巻です。西に美なる尾鈴山を眺め、東に壮なる日向灘を望みます。明治からのこの街の開拓精神の力強さを再確認致します。私の親友の薬剤師〇氏が道の駅に観覧車を設置したらと提案した経緯がありました。壮大大胆な発想に尊敬の念を抱きます。

医師を取り巻く環境は明るいものではありませんが、皆の温かさと英知を合わせ、多くの医師会員が各市町村の公立病院や総合病院に協力

しながら、救急医療をはじめ総合医療を地域社会に還元する工夫をする時期なのですが。

(黒木 宗俊)

◇ ◇ ◇ ◇

西 都 市 西 児 湯 医 師 会

たびたび報道される西都市西児湯医師会ですが、西都市児湯医療センター医師退職などによる医師不足のため、4 月からは内科の夜間救急外来が休診となり、外科のみの診療となりました。ごく一部の不適当な人事により地域医療、救急医療が混乱に陥ったことを残念に思います。ま

た宮崎市郡など近隣の医師会にご迷惑をかけることになり恐縮です。しかし、外科夜間外来の継続により、昭和 55年より続く当地の救急医療の灯が完全に消えることは阻止できました。今後内科外来の再開を少しでも早く可能にしていかなければなりません。(杉尾 克徳)

◇ ◇ ◇ ◇

南 那 珂 医 師 会

社会の高齢化が進む中、在宅医療の重要性は増大し、在宅医療・介護を担う施設・スタッフの連携を図るため、当医師会でも毎月、在宅ケア研究会を開催しています。医師会、行政を含め在宅医療支援病院、診療所、訪問看護ステーション等の医療・介護スタッフの間で顔の見える関係を築くことで、在宅医療の円滑な拡充が図られつつあります。(竹中 晃司)

◇ ◇ ◇ ◇

西 諸 医 師 会

第三次救急医療機関が近くにない西諸医療圏におきましては、ドクターヘリの運航は、患者の救急搬送や救急医療に大きく貢献しています。3月には小林市立病院駐車場に新たにヘリポートが完成し、市内からより短時間で搬送が可能となり、今後、益々の活躍が期待されます。

(立山 洋司)

◇ ◇ ◇ ◇

宮 崎 市 郡 医 師 会

宮崎市郡医師会の行っている事業の一つに医師の生涯研修に関する事業があります。定款に“医学及び医術の発達普及並びに公衆衛生の向上を図り”とあり、その目的を達するためにしのめ医学会を例会にあわせて講演会の形式で開

催しています。講師は宮崎大学医学部の新任教授を中心にお願いしています。自分の専門以外の分野はなかなか勉強する機会がありませんが、しのめ医学会がその機会を提供できればと思っています。多くの会員の参加をお待ちしています。(菊池 郁夫)

◇ ◇ ◇ ◇

都 城 市 北 諸 県 郡 医 師 会

現在、医師会3施設新築移転について難航しております。また医師確保についても心配であります。これについては、当医師会のみならず宮崎県全体の問題でしょう。毎月2回理事会が行われますが、終了後場所を移し飲食しながら、将来の医師会について熱い討論しております。皆、遠慮無く自分の本音を言い交友を深めております。これが、みやこんじょの良い所です。

(山路 健)

◇ ◇ ◇ ◇

延 岡 市 医 師 会

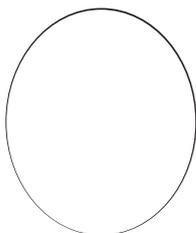
県立延岡病院にヘリポート付きの救命救急センターが完成し、平成 25年 3月 21日午後から運用を開始しました。新センターは同病院敷地内に鉄筋コンクリート造り3階建ての専用棟が建設され、屋上のヘリポートで直接乗降できます。また、従来は一般診療と共用だったCT室や透視室も救急専用を設置しております。そしてまたドクターヘリはこれまで病院から約4キロ離れた大瀬川河川敷を離着陸に使っていましたが、新センター屋上のヘリポート活用で、搬送時間は15分程度短縮される見通しです。

こうやって少しずつでも県北の医療状況を改善していけたらと思っております。(日高 孝紀)

◇ ◇ ◇ ◇

国公立病院だより

高千穂町国民健康保険病院

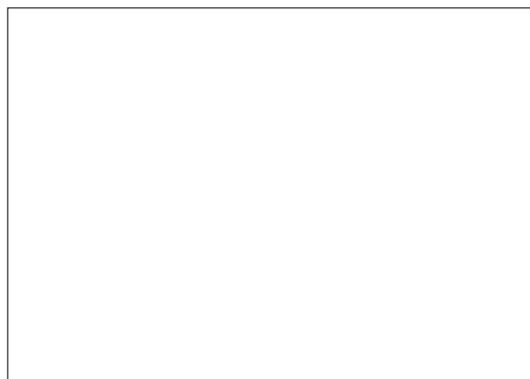


み た せい し
箕田 誠司 病院長

昨年 4 月に病院長に就任して 1 年が経ちました。平成 20 年 5 月号の本欄に当時の柴田和哉院長が寄稿していますので、今回は 5 年ぶりになります。当院は県北西部の中山間地である西臼杵郡の中核病院としての役割があり、観光地として有名な高千穂町三田井の国道 218 号線沿いにあります。

病院は昭和 26 年に常勤医師 1 名の有床診療所 (19 床) として開設された後、幾多の診療体制の変遷を経て、柴田院長時代の平成 1 年に現在地に新築移転しました。新築移転後は IT 化も進み、平成 1 年にオーダリングとフィルムレス (PACS)、平成 23 年に電子カルテが導入されています。経営は柴田院長時代の平成 6 年と平成 22 年に自治体優良病院として表彰を受けましたが、昨年度は赤字になりました。そのため、事務長とも原因を分析しながら、確実に診療報酬を算定し、コストを抑える方針をより徹底しているところです。

平成 23 年 4 月現在の病院の診療体制は、5 年前に比べると泌尿器科 2 名と眼科 1 名が不在となり、常勤医師も 1 名から 9 名に減りました。病床は 120 床すべてが一般病床で、10 対 1 看護を取得、非常勤職員を含む約 180 名の体制で運営しています。標榜科目 9 診療科のうち、内科 (県派遣 2 名を含む自治医大卒 3 名)、外科 (熊大消化器外科派遣 3 名)、整形外科 (宮大整形外科派遣 2 名)、小児科 (熊大小児科同門 1 名) は常勤医師による診療ですが、循環器科、眼科、泌尿器科、



皮膚科、耳鼻科は非常勤医師 10 名による曜日限定の外来診療のみです。循環器科が済生会熊本病院の派遣で、他は熊大医局からの派遣です。残念なことに眼科がこの 4 月から非常勤診療になりましたが、白内障手術などの必要な患者さんが多いため、週 2 日の外来日のうち、1 日は午後手術してもらっています。人工透析も熊大血液浄化部の非常勤医師によるサポートを受けながら約 70 名の患者さんの維持透析を行っています。

昨年は内科で平成 23 年末の常勤医師の急病をきっかけに熊大医局からの常勤医派遣がなくなる問題が発生しました。県医療薬務課にもご心配をかけ、そのご支援のもと、美郷町地域包括医療局総院長の金丸吉昌先生には多くの医師を応援派遣していただき、大変お世話になりました。昨年 12 月からは、県のご高配で派遣された常勤内科医 2 名とあわせて常勤内科医は 3 名となり、全員自治医大卒になりました。特に義務年限明けで勤続 3 年の押方慎弥医師は高千穂出身でもあり、内科医長兼臨床教育部長として、診療だけでなく、地域医療枠で来る 2 年次の初期臨床研修医 (今年は宮大 4 名、熊大 1 名の予定) 教育にも中心となって頑張ってくれています。しかし、県や大学医局頼みの医師確保も限界がありますので、地域医療枠を利用した研修医教育で実績を積み重ねながら研修内容を充実させ、

将来的に総合診療医の研修施設を目指して、自前で地域に残る医師を育てたいと思っています。

今年の一取り組みの一つに患者中心の安心安全の医療を実践するために、病院の質の向上を目的とした病院改革プロジェクトがあります。委員会の整備や終末期医療の勉強会を中心になって進めてきた興相知子副院長に、病院改革プロジェクトのリーダーを引き受けてもらいました。病院機能評価に見合うレベルへの病院の質の改善を目指しています。また、昨年秋から済生会熊本病院へ短期ではありますが、看護師の希望者には院外研修へ行ってもらおうようにしました。さらに認定看護師取得も積極的に支援する方針を打ち出したところ、早速、日本看護協会の感染管理の認定看護師コースの平成 25年度試験にパスした看護師も出てきました。

さて、平成 24年度の診療実績ですが、外来患者数は約 400名 /日、入院患者数は約 90人 /日、病床利用率は約 70~ 80%で、平均在院日数は約 21日でした。検査件数は食道胃内視鏡約 1,200例、大腸内視鏡約 400例、腹部エコー約 700例、16列 CT約 2,300例、1.5T MRI約 500例、心エコー約 500例などでした。休日や夜間も呼び出しではありますが臨床検査や画像検査も可能です。手術室は 3室あり、麻酔医はいませんが、全麻が約 60件、腰麻が約 100件あり、手術総件数は約 500件でした。内訳は眼科が白内障手術を中心に約 280件、整形が骨折を中心に人工関節置換（股関節や膝関節）など約 170件、外科が胆石、アッペ、ヘルニアの他、胃癌や大腸癌など約 40件となっています。胃ろう造設も約 20件ほどありました。

救急車搬入は約 400件、ドクターヘリ搬送要請 12件（1件はあおぞら）でした。高次病院への救急搬送は当院で対応できない脳出血と心筋梗塞の患者を中心に毎年約 80件ほどあり、搬送先

は県立延岡病院と済生会熊本病院がそれぞれ半々であわせて 90%を占めています。平成 24年 4月 1日から、西臼杵 3町の統合消防本部および消防署が常設されることが決定しており、そうすると救急車搬入が増加することが予測されます。それを見据えて、昨年 9月に西臼杵救急医療研究会を立ち上げ、顔の見える救急連携というテーマで熊本赤十字病院や県立延岡病院から講師を招き、これまで 2回開催しました。今後もいろいろな救急テーマで年 2回のペースで搬送先の 3次病院との病病連携を強化していく予定です。

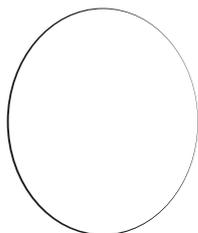
一方、西臼杵郡には A 会員が 5名で B 会員が 8名の小さな西臼杵郡医師会（佐藤元二郎会長）があります。会員施設として、高千穂町に個人診療所が 4施設、精神病院が 1施設ありますが、日之影町と五ヶ瀬町には町立病院しかありません。残念ながら当院とこれら町立病院同士の連携はほとんどなく、当院と町内の診療所との連携も十分にできているとは言えません。西臼杵全体の限られた医療資源のなかで、これらの施設との連携を積極的に進めていくことで、西臼杵医療圏の約 22,000人の人々が、少しでもいい医療を受けられるように佐藤会長とも具体策について検討を始めています。

高千穂町も人口が 1960年の約 27,000人をピークに現在約 13,000人まで減っており、高齢化率は 35%です。人口は 2025年には約 10,000人まで減少することが予測されています。人口減少および高齢化は西臼杵 3町共有の問題で、今後の包括医療・福祉を考えるうえで、公立病院改革ガイドラインで示された集約・ネットワーク化の方向性は避けて通れない問題と考えます。住民の理解を得、西臼杵郡医師会のご協力を仰ぎ、また、病院の改革と連動させ、行政とともに、その解決を目指していく所存です。

（箕田 誠司）

宮崎大学医学部だより

臨床神経科学講座 - 脳神経外科学分野 -



たけしま ひでお
竹島 秀雄 教授

最近の教室の動き

平成 18年 10月に現竹島秀雄教授が 3 代目教授に就任し 6.5年が経過した。昨年は、当教室から落合先生が宮崎大学救急部の教授に昇任され、脳卒中や多発外傷が増加し、当科での緊急手術も増加。昨年度の手術件数は前年度の約 1.5倍となった。

4月からは、新たに 2 名の新入局があり(奥山洋信, 横山貴裕) 大学での研修をスタートしている。

臨床活動

当教室では、脳腫瘍、脳血管障害、脊椎脊髄疾患、外傷を主に扱っている。悪性脳腫瘍の治療については、2 台のナビゲーションシステムと各種モニタリングを駆使した手術、薬剤耐性遺伝子の解析をはじめとする、摘出腫瘍の遺伝子解析に基づいた各個人へのオーダーメイド医療を提供している。特に、5-ALA を用いた悪性脳腫瘍に対する蛍光手術は、非常に効果的で今後のスタンダードとなる治療法と考えている。また、新薬や免疫療法への治験参加と JCOG (日本臨床腫瘍研究グループ) に参加し、日本発のエビデンスの確立に寄与している。脳血管障害領域では、Onyx などの新たな脳血管内治療のデバイスや塞栓物質を導入し、より安全で効果的な治療が可能となった。更に、本年度から定位脳手術のためのレクセルフレームが使用可能となり、脳深部電極挿入による機能脳外科が稼働の予定である。

社会貢献の観点からは、社団法人日本脳卒中協会の宮崎県支部局として、一般市民への啓発のため市民公開講座を毎年行っている。本年は 6 月に小林市において開催予定である。

教育

医学部生の教育では、4 ~ 6 年生の臨床講義と、4, 5 年生のベッドサイド臨床実習。同時に、6 年生のクリニカルクラークシップを担当している。ベッドサイド臨床実習では、患者と接することを主眼に、疾患についての理解のみ

ならず、各患者における問題点を解決するための考え方を指導している。特に、6 年生のクリニカルクラークシップでは、より実践的な指導を心がけており、毎年 20 名近くの学生を受け入れている。一方、教室員への教育は、卒後 7 年目の脳神経外科学会専門医取得を第一の目標に掲げ、本年度も 1 名の合格者(松元文孝)を輩出した。脳神経外科学会専門医取得後は、学位や subspeciality としての、脊髄外科学会専門医、脳神経血管内治療学会専門医、脳卒中専門医、がん治療認定医を取得すべく、週 2 回の症例カンファレンス、月 2 回の神経放射線カンファレンス、各人に応じた手術指導を行ってスキルアップを図っている。今年は 1 名のがん治療認定医(山下真治)が誕生した。また、subspeciality 取得後も、それに偏ることなく、オールマイティな脳外科医を目指すべく、熊本大学、大分大学と共同で中九州三大学病院合同専門医養成プログラムを積極的に推進しており、大学間での交流が盛んである。昨年は福島県の Codman Lab で、3 校合同研修会を実施した。当科は、脳血管内治療、脊椎脊髄の担当となり、3 校合同で動物実習を行った。

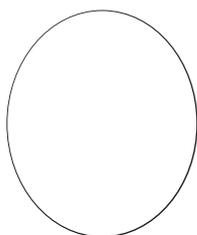
研究活動

当教室研究室では、腫瘍生化学教室とタイアップして、脳腫瘍の遺伝子解析(山下, 山崎), 治療法の開発, 正常神経幹細胞の分化制御を行っている。ヒト脳腫瘍摘出サンプルから、がん幹細胞をはじめ、数種の cell line を得ることに成功し、現在、動物実験を行っている。また、がん幹細胞を頂点とするがん細胞のヒエラルキー理論を検証すべく、正常神経幹細胞の分化制御実験のための conditional knockout mouse の作成に成功し、解析を行っている(横上, 水口)。さらに、水口惣平 Ph.D. をスタッフに迎え、網羅的遺伝子解析をはじめとする、オミクス解析にも着手し、より高度な研究活動がスタートした。

少ないスタッフながら、教室員の quality をより高くをモットーに海外研修も勤めている。昨年 9 月には杉本哲朗がフィンランド留学から帰国し、習得した脳血管障害をはじめとする手術手技を存分に披露してくれており、1 月からは川添琢磨がドイツに留学し、さらなるスキルアップと世界に通じる考え方の習得に邁進している。これからも長期戦略に立った教室づくりを行って、地域に還元していく所存である。

(医局長 横上 聖貴)

専 門 分 科 医 会 だ よ り (透 析 医 会)



ふじもと しょういち
藤元 昭一 会長

当医会の会員は、総数は約 90名、うち開業医と勤務医が約半数ずつの構成であり、所属する医療機関は全県下の 7 医療圏に広がっています。副会長を中山健、幹事を宮崎市の蓑田国廣(会計・事務局)・盛田修一郎・

福田聡一郎、小林市の池井義彦、延岡市の小川修、北

諸県の田中隆、日向市の家村文夫の諸先生に、基幹病院から上園繁弘(県立宮崎病院)、久永修一(古賀総合病院)、佐藤祐二(宮崎大学)の各先生に、そして監事を山下政紀(東諸県)先生をお願いしています。泌尿器科医が 5 名、内科医が 7 名ですが、両科の壁なく、開業医と基幹病院間が協力することで、県下の透析医療は支えられていると考えています。

日本透析医学会の統計によると、1980年に 36,397人であった全国で慢性透析療法を受けている患者数は 2011年には 304,592人(8.4倍)にも達しています。また、宮崎県の患者数は 2012年 12月 31日末時点で 3,742人まで増加しており、そのうち 20年以上の長期透析患者数は 383人、80歳以上の高齢者が 17%、さらには合併症を持った患者が増えてきており、医療者側も日々の診療に苦慮することも多くなってきています。

さて、医師会や宮崎県(行政)、宮崎大学のご協力の下、本医会の災害対策は少しずつ前進しています。透析医療にはライフラインの確保が必須であること、宮崎は立地的に陸の孤島であること(他県の援助が届きにくい)が背景にあります。日本透析医会の災害ネットワークに加入し、宮崎県内を 8 ブロックに分けブロック内の連絡網を形成し、情報共有と代替透析が可能な状況が整備されました。そして、昨年度には、宮崎県の防災メールサービスを使い、登録した透析患者、家族、スタッフ、マスコミに、携帯電話のメールで災害発生時宮崎県内の透析施設

情報をリアルタイムに配信することができるようになりました(透析メール)。次の段階として、透析条件をデータベース化し(クラウド化)、災害時にインターネットにて代替施設が患者情報を確認できるシステムを、宮崎大学の「はにわ」を利用して構築中です(宮崎大学医療情報部荒木賢二教授のご指導の下)。

一方、大地震で広範囲に長期断水が発生すると、給水はとても供給には追いつけません。限局的短期的断水(湯水)には貯水タンクが有用ですが、根本的対策としては地下水プラントしかないと考えられます。災害拠点病院、高度医療施設、多数の入院患者を抱える大病院は、防災対策として自家発電に加えて地下水プラントを常設する必要があると考え、宮崎県医師会より宮崎県へ事業提案として要望中です。これらの問題解決は、他の医会の先生方へのお役にも立てる可能性があるのではないかと考えている次第です。

話は変わりますが、昨年度は 12月に、第 45回九州人工透析研究会総会が、「透析ガイドラインを視る、識る、使う、考える」をメインテーマとして、シーガイアコンベンションセンターにおいて開催されました。県内の多くの透析施設の皆様のご協力と参加のおかげもあり、1,500名を超える参加者のもと、無事盛況のうちに終了することができました。本年度は 6月に「透析療法における安全管理セミナー」、7月に第 42回目の宮崎県人工透析研究会(昭和 47年より継続中)が開催されます。これらの会は、勉強とともに情報交換の場としても利用されています。さらに透析療法を支えているコメディカルの活動として、宮崎県臨床工学技士会、腎不全看護研究会が、本透析医会のもとで各々自己研鑽に努めています。

専門分科医会の中で最も新しい本医会です。今後とも他医会の先生方の当医会へのご指導、ご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

(藤元 昭一)

薬事情報センターだより (312)

新薬紹介(その 62)

今回は 2 月に薬価収載された TNF 阻害薬 シムジア皮下注 200ng シリンジ(一般名 セルトリズマブ ペゴル(遺伝子組換え)) と持効型溶解インスリンアナログ注射液 トレシーバ注フレックスタッチ・ペンフィル(一般名 インスリン デグルデク(遺伝子組換え)) について紹介いたします。

シムジア皮下注 200ng シリンジ(一般名 セルトリズマブ ペゴル(遺伝子組換え))

シムジア皮下注 200ng シリンジは、ヒト化抗ヒト TNF モノクローナル抗体の抗原結合フラグメント(Fab ') にポリエチレングリコール(PEG) を結合された化合物です。ヒト TNF に対して強力な結合親和性を示し、その生物活性を選択的かつ強力に中和するとともに、単球からの炎症性サイトカインの産生を抑制します。Fc 領域を持たないことより、免疫担当細胞に対して補体依存性細胞傷害作用、抗体依存性細胞傷害作用を生じず、また、膜結合型 TNF との結合後の細胞内情報伝達様式より、アポトーシス誘発などの細胞傷害を生じないことが示唆されています。なお、PEG を結合させたことで、たん白分解を受けにくく、作用の持続が期待できるとともに、炎症部位に集積しやすい可能性が示唆されています。

本剤は、2012 年 12 月に「既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)」を効能・効果として承認され、2013 年 3 月に発売されました。関節リウマチに対する適応では、2012 年 10 月現在、42 か国で承認又は販売されています。

国内の関節リウマチにおける臨床試験において、安全性解析対象症例 528 例中 302 例(57.2%) において臨床検査値異常を含む副作用が認められています。主な副作用は鼻咽頭炎 66 例(12.5%)、上気道感染 38 例(7.2%)、咽頭炎 26 例(4.9%) 等でした。また、重大な副作用として、敗血症、肺炎等の重篤な感染症、結核、重篤なアレルギー反応、脱髄疾患、重篤な血液障害(汎血球減少、血小板減少、白血球減少、顆粒球減少等)、抗 dsDNA 抗体の陽性化を伴うループス様症候群、間質性肺炎が報告されています。

トレシーバ注フレックスタッチ・ペンフィル(一般名 インスリン デグルデク(遺伝子組換え))

インスリン デグルデクは、製剤中では可溶性のジヘキサマーとして存在していますが、投与後、皮下組織において会合して、可溶性で安定なマルチヘキサマーを形成し、一時的に注射部皮下組織にとどまります。モノマーはマルチヘキサマーから徐々に解離するため、投与部位から緩徐にかつ持続的に血中に吸収され、長い作用持続時間をもたらします。さらに、程度としては小さいものの皮下注射部位及び血中で脂肪酸側鎖を介してアルブミンと結合し、作用の持続化に寄与します。1 日 1 回の投与でより平坦で安定した血糖降下作用を示し、その効果は 24 時間を超えて持続します。毎日一定のタイミングであればいつでも投与することが可能です。

本剤は、2012 年 9 月に「インスリン療法が適応となる糖尿病」を効能・効果として承認され、2013 年 3 月に発売されました。

日本人が参加した長期投与試験を含む臨床試験での安全性評価対象症例 640 例中 102 例(15.9%) に 170 件の副作用(臨床検査値異常を含む) が認められました。当該試験に参加した日本人症例 267 例においては、43 例(16.1%) に 6 件の副作用(臨床検査値異常を含む) が認められました。全集団における主な副作用は、重篤な低血糖 19 例(3.0%)、糖尿病網膜症の顕在化または増悪 13 例(2.0%) 等でした(承認時)。なお、重大な副作用として、低血糖、アナフィラキシーショックがあらわれることがあります。

参考資料

シムジア皮下注 200ng シリンジ、トレシーバ注フレックスタッチ・ペンフィル
各添付文書・インタビューフォーム
(宮崎県薬剤師会薬事情報センター

永井 克史)

九州医師会連合会第 33回常任委員会

と き 平成 25年 3月 9日(土)

ところ シーガイアコンベンションセンター

九医連稲倉会長が、宮崎県医師会が担当する九医連の大きな会議は、本日の会議をもって全て終了し、残すは3月3日、東京での会議のみとなる。この1年間、交通の便の悪い宮崎県での開催、また不行き届きな点多々あったと思うが寛容な気持ちでお許しいただきたい。九州各県のご協力に心より感謝すると挨拶を行い、報告・協議に入った。

報 告

- 1.九州ブロック日医代議員連絡会議(3月9日(土)宮崎市)について(宮崎)
稲倉会長が、常任委員会終了後、引き続き開催する会議の進行確認を行った。

協 議

- 1.九州医師会連合会第33回常任委員会の開催について(沖縄)
沖縄県医宮城会長が、沖縄県医が担当後、初めての常任委員会を、4月13日(土)、名護市の万国津梁館で開催する旨の提案を行い承認された。
- 2.医療ツーリズムへの対応について(鹿児島)
鹿児島県医池田会長が、医療ツーリズムにも治療、健診、健康増進等に関連するもの、また厚労省、経産省、観光庁が提案するもの等様々なものがあるとの問題提起を行い、各県における状況及び対応について意見交換を行った。
- 3.第128回日本医師会定例代議員会開催に伴う九州ブロック日医代議員連絡会議(3月3日(日)日医)の開催について
稲倉会長が、日医定例代議員会の開催に伴い、開会前の9時から九州ブロックの連絡会議を開催する旨の提案を行い承認された。

- 4.第128回日医定例代議員会(3月31日(日)日医)における代表・個人質問について

稲倉会長が、日医議事運営委員会の決定事項により、各ブロックから出される質問事項は、代表質問1名、個人質問2名以内である旨の説明を行い協議した結果、九医連として以下の質問を提出することが承認された。

代表質問

地域医療再生基金の平成24年度補正予算による積み増し分に係る在宅医療の整備推進について

(銚之原大助代議員・鹿児島県)

個人質問

医療にかかわる控除対象外消費税問題の根本的解決、課税制度は「患者に新たな負担」を強いるものではない!!

(小尾重厚代議員・長崎県)

統合医療推進は許されない

(白石昌之代議員・福岡県)

なお、個人質問の2題については、一部内容を整理、修正を行った上で提出する。

その他

「日医代議員会におけるブロックからの個人質問数」に関する九州ブロックとしての意見の取り纏め結果について(長崎県)

長崎県医蔭本会長が、先に九州各県に照会を行っていた「個人質問数」の調査について、現行(2名)のままが4県、質問数を変更すべきが4県で、その旨日医議事運営委員会に回答したことを報告した。

出席者 - 稲倉会長、大重事務局長、竹崎課長

九州ブロック日医代議員連絡会議

と き 平成 25年 3月 9日(土)

ところ シーガイアコンベンションセンター

九医連稲倉会長の挨拶の後、引き続き稲倉会長が座長に選出され、日本医師会各種委員会報告に入った。報告では、医療事故調査に関する検討委員会と日本医師会綱領(仮称)検討委員会の2つの報告が行われ、九州ブロックが選出した堤委員と福田委員がそれぞれ報告を行った。続いて中央情勢報告が行われ、日医横倉会長、日医今村(定)・藤川常任理事が日本医師会の各種事業について説明を行った。

日本医師会各種委員会報告

医療事故調査に関する検討委員会報告(要旨)
堤康博委員(福岡県)

平成 25年 6月に日医がまとめた「医療事故調査制度の創設に向けた基本的提言」を再検討すること並びに実現に向けた具体的方策を検討するため平成 24年 12月に「医療事故調査に関する検討委員会」が設置された。基本的提言は

1. 医療事故調査制度の創設
 - 1) 全ての医療機関に「院内医療事故調査委員会」を設置する。
 - 2) 医療界、医学会が一体的に組織、運営する「第三者的機関」による医療事故調査を行う。

2. 医師法 2条の改正を行う

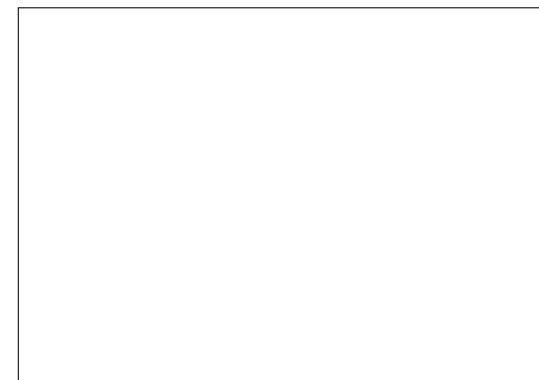
3. ADR の活用を推進する。

4. 患者救済制度を創設する。

が基本となっており、検討委員会では、院内の医療事故調査のあり方、第三者的機関の設置による医療事故調査、厚生労働省医政局医事課による医師法 2条の解釈等について検討を行っていく予定である。

日本医師会綱領(仮称)検討委員会報告(要旨)

福田俊郎委員(長崎県)



平成 24年 4月の第 126回日医定例代議員会において、個人質問として、日医としての目標や理念、ビジョン等を明確にした「綱領」があるべきと要望を行ったところ、日医横倉会長が「日医は会員だけでなく、国民に理解していただけるような明確な具体的な目標、行動指針を示すことで、日医の下に全ての医師が集結してもらうためにも、明確な目標を持った行動規範となる普遍的な綱領が必要だ。できるだけ早急にプロジェクト委員会を立ち上げたい」と回答があり、検討委員会設置の運びとなった。

今まで 4回の委員会を開催、メーリングリスト等も活用し、委員会として最終案の答申を行った。

【前々文】

日本医師会は、少子高齢化の中、我が国の政治、経済、社会の大きな変革と日進月歩の医療界において、医療の現状と将来を見据え、公益法人として普遍性を深く理解し、日本医師会の綱領を策定した。「医の倫理綱領」とともに大事に扱われたい。

【日本医師会綱領(案)前文】

日本医師会は、医師としての高い倫理観と使

命感を礎に、国民と信頼を共有し、人間の尊厳が大切にされる社会の実現を目指します。

【日本医師会綱領の項目】

1. 日本医師会は、国民の生涯にわたる健康で明るい生活を支えます。
2. 日本医師会は、国民とともに、安全・安心な医療の提供体制を築きます。
3. 日本医師会は、医学・医療の発展に寄与します。
4. 日本医師会は、国民の連帯と支え合いに基づく国民皆保険制度を堅持します。

以上誠実に実行することを約束します。

中央情勢報告(要旨)

日本医師会 横倉義武会長

「過度な規制緩和の問題点」について、国民皆保険を守ることは、公的な医療給付範囲を将来にわたって維持すること、混合診療を全面解禁しないこと、株式会社を医療機関経営に参入させないこと、この3点は譲れない。安倍総理が2月に訪米する前日に、十分気をつけて頂きたいとお願いした。特にISD条項(投資に関する紛争解決手続き)が医療に適用されないように注視する必要がある。

「かかりつけ医」は、平成19年に日医が「なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる「地域医療、保健、福祉を担う幅広い能力を有する医師」と定義している。かかりつけ医の質の担保は医師会がやらなければいけない。そのためには、日医の生涯教育制度を利用することと在宅医療に関するレベルを上げていくことをお願いしたい。

日本医師会 今村定臣常任理事

医事法制関係について、医療基本法の制定に向けての準備をしているところである。昨年3月、会内の医事法制検討委員会から出された医療基本法制定に向けての具体的提言を受け、シンポジウム等を開催し積極的に周知活動を行っている。

母子保健関係では、生殖補助医療の法制化が具体化している。プロフェッショナルオートノミーの考えを基盤として、医師会主導での法規制を念頭におき、生殖補助医療法制化検討委員会で、母体保護法に倣った指定医制度を創設し、都道府県医師会が実施する医療機関と医師を指定するという骨子案を取りまとめており、母体保護法関連についても、4月3日に最終的な結論を経て、日医の指定基準のモデルを各都道府県医師会に通知する予定である。

また、小児保健法関連は、現在、既存の法律と昨年成立した子ども・子育て関連3法並びに平成20年3月に出された小児保健法との整合性について検討している。

治験については、従来の医師主導治験を充実させると共に医師会が関与した形での治験、臨床研究を支援していきたいと考えている。

日本医師会 藤川謙二常任理事

平成25年2月、会員の倫理・資質向上委員会の中問答申で医療事故を繰り返す医師に対する「(仮称)指導・改善委員会」の設置について答申した。

生命倫理は、今日の医療をめぐる生命倫理について、特に終末期医療と遺伝子診断治療について議論している。

特定行為に係る看護師の研修制度は、3月29日に、今年度最後の答申を出す、その報告書の中に、まだまだ危険な行為を看護師にさせることが載っており、現在調整中である。

労災自賠責に関して、R IC(労災保険情報センター)が特別保険業の認可を得て4月から公益法人となる。全ての労災指定医療機関は再度契約する必要がある。自賠責保険は4月1日から基準料率が13.5%に上がる。

出席者 - 稲倉会長、河野・富田副会長、
立元・池井常任理事・青木理事
大重事務局長、與・小川・竹崎・
杉田課長

平成 24年度都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会

と き 平成 25年 3月 15日(金)

ところ 日本医師会館

挨拶 日本医師会長 横倉義武

医療現場における看護職員不足は深刻な状況にある。この問題を解決する唯一の方法は看護師・准看護師の安定的養成である。准看護師も看護師と同じように地域医療において重要な役割を果たしており、地域医療に密着した診療所・中小病院・精神科病院・介護施設等にはなくてはならない存在である。日医は地域医療確保の観点から准看護師養成制度は必要と考えており、地域医師会立看護学校・養成所の運営について今後も強く支援する。本来は看護職員以外の医療関係者の問題も取り上げるべきだが、今こそ、そこにある危機、地域医療崩壊を阻止するために看護職員の問題を優先させていただくことにご理解をいただきたい。

さて、TPP交渉参加問題に関して、日医では兼ねてよりTPP交渉参加により国民皆保険が毀損されることに懸念を表明していた。交渉参加が表明された場合にも今後の交渉の行方について注視するとともに、日本の国益に反すると判断された場合にはTPP交渉から撤退するという選択肢をもって交渉に臨んでいく。

議 事

1. 看護職員を巡る最近の動向について

厚生労働省医政局看護課長 岩澤和子

1) 看護職員の数の確保に向けての取組み

平成 24年度看護職員関係予算では、民間立の看護師等養成所への運営費助成や看護師等の労務管理の改善に向けた取組みに対する補助事業等の取組みを行った。平成 25

年度はそれに加えて、「看護職員の就業相談員派遣面接相談モデル事業」を行っていく。求職・求人マッチング率の向上のためナースセンターの就労支援相談員がハローワークと協働して求職者の就労相談、求人医療機関との調整などを行うことに対する補助を行う。また、チーム医療の総合的な推進という観点から、看護補助者に活躍してもらうため、看護管理者を対象とした「看護サービス管理能力の向上のための研修」事業にも取り組む。

2) 看護の質の確保についての取組み

就業者数の増加(就業場所、働き方の多様化)、学校養成所数の増加(学校種別、入学前経験、学歴の多様化、男子学生の増加)といった多様性の時代における看護職員の質の確保をするために、国家試験については、4～5年おきに国家試験そのものを改善する検討部会を開いており、この春から保健師助産師試験の状況設定問題を5問増やし、試験時間を15分延長した。計算問題では、より正確な知識を問えるような解答方式に変更した。

看護教員の基礎的能力を養う専任看護教員養成講習会等については、全都道府県で開催されているわけではないので、8か月間にわたる受講が難しい場合がある。そこで今年度からeラーニング活用科目を設けた。平成 26年度以降講習会を開催する都道府県においては積極的にeラーニングをご

活用いただきたい。

新人看護職員の能力と看護現場に求められる能力とのギャップを埋めるために、平成 22年度から新人看護職員を受け入れている医療機関に「新人看護職員研修」を努力義務化している。平成 23年度は、自施設での研修を行った施設が 2,350、他の医療機関の職員を受け入れた施設が 29施設であった。平成 23年 10月 1日の医療施設調査によると、病院数 8,603のうち新人看護職員がいるのは 4,746で、このうち約 4,500施設で新人看護職員研修が実施された。

3) 看護師特定認証制度について

現在、特定行為の範囲と研修のあり方を検討するために、チーム医療推進会議で「特定行為に係る看護師の研修制度(案)」を議論いただいている。この制度(案)は、特定行為に係る研修について厚生労働大臣が指定した研修を受講すること、また指定された研修に該当しない特定行為を実施する場合は、努力義務として院内研修などを受けることを示したものであり、平成 24年度内に取りまとめる予定である。

2. 看護の今とこれから

健和会臨床看護学研究所長

日本赤十字看護大学名誉教授 川嶋みどり
保健師助産師看護師法では、看護師の業務は「診療の補助」と「療養上の世話」と定められている。「療養上の世話」は、人間が人間らしく生きていく上で欠かせない営みのケアである。現在の病院看護現場は、効率性に価値を置く医療風土と患者の重症化・高齢化により危険信号が鳴り響いている。触れ、癒し、慰める方法から遠ざかる姿となっており、患者・家族の思いとの乖離がみられる。看護技術は、医療技術と同じかそれ以上の効果があり、侵襲性を伴わず安全で安楽で自然治癒力を高め

る効果がある。しかし、現在の「看護師特定認証制度」の議論では、「医行為」を診療補助業務として拡大することに焦点があてられている。看護師の専門性を評価するなら、看護師独自の判断による看護師の自由裁量の幅を広げるべきで、医師の絶対的医行為の移譲に偏った拡大は、有限有用資源の無駄使いである。看護職員が療養上の世話などの看護に専念することで得ることができるアウトカムを過小評価すべきでないを考える。

また、「看護師は看護に専念すべきである」「医師の指示に知的に従う」といったナイチンゲールの言葉を引用され、現在進行中のチーム医療論議の看護師特定認証制度には反対の立場を主張された。

3. 医師会立看護学校における看護学生の喫煙に関する現状調査

日本医師会総合政策研究機構主席研究員

江口成美

平成 24年 1月に日医が実施した、医師会立看護師・准看護師学校養成所在校生が対象の喫煙に関するアンケート調査結果の概要が報告された。

看護職員は喫煙率が高いと言われ、学生の時点で禁煙が必要とされている。しかし看護学生の喫煙の現状は必ずしも十分に把握できていない。本調査は、医師会が運営する全国の看護師等学校養成所の在校生を対象に、喫煙の有無、禁煙の意向、禁煙の理由等を調査項目とし、看護学生の喫煙状況を把握して、看護学生の禁煙支援のニーズと看護学校での近年教育の現状を明らかにする目的で実施した。

喫煙率は、全体で 19.6%(男子学生 35.8%、女子学生 15.8%)であり、20歳以上の喫煙率は 22.9%(男子学生 39.8%、女子学生 18.6%)であった。年齢別では、男女共に 20歳代後半に

喫煙率が高かった(男子学生 45.1%, 女子学生 23.9%)。毎日喫煙している学生の 48.3%, 時々喫煙する学生の 32.7%が 20歳に至らないで喫煙を開始した。喫煙に影響している要因は、勤務時間(長いほど喫煙率が増加), 睡眠時間(短いほど喫煙率が増加)が影響を与えていた。また、ストレスの度合い, 医療機関での就労の有無も勤務時間, 睡眠時間と同様に影響を与えていた。医療従事者は禁煙すべきかという問いに対しては, 全体の 63.2%が賛成, 13.3%が反対であった。なお, 毎日喫煙している学生では 45.1%が賛成であった。禁煙指導の質問に対しては, 現在喫煙している看護学生の 75.8%がいつか禁煙したいと考えており, 1か月~1年以内に禁煙したいと回答した学生のうち約半数は, 禁煙指導や禁煙外来を受けたいとの希望を持っていた。過去に喫煙歴があり現在禁煙している学生の禁煙理由は, 健康上よくない(54.6%), 金銭的負担(34.4%), 看護職員であるため(14.4%)であった。看護学校における禁煙対策は, 敷地内禁煙が 93.8%だった。また, 禁煙カリキュラムを持つ学校は 17.8%, 不定期に禁煙カリキュラムを持つ学校が 52.9%だった。禁煙対策を積極的に行う学校では, 喫煙率が低い傾向がみられた。

調査結果を受け, 看護学生の禁煙は国民全体の禁煙と健康につながることから, 医師会及び看護学校がより積極的に禁煙教育に関与することを望む。

4. 新人准看護師の到達目標等について

日本医師会常任理事 藤川謙二

国立病院機構や日赤の看護師養成所数が, 看護大学を創るということで過去 10年に半減した。もともと公立病院や大学病院は自院で必要な看護師を養成するというのが原則である。しかし現在看護大学は全国に 200近くあるにもかかわらず, その地域に卒業者が残らな

いため, 日赤や国立病院機構が看護師を確保できなくなり, ハローワークを通じて医師会立養成所から採用したという事実があった。このように, 大学では卒業生が地域に残らず, ましてや診療所に看護師として就業した者は卒業生約 1.4万人中わずか 3名しかいないため当てにできない。地域医療の崩壊を食い止めるためには, 医師会立養成所で, 頑張っ て看護師を養成していくことが必要であると力説された。そのあと新人准看護師の到達目標について以下のような試案の説明があった。

保健師助産師看護師法などの改正により, 平成 22年度より新人看護職員研修の実施が全医療機関に努力義務化され, 厚労省から新人看護職員研修ガイドラインが示されている。このガイドラインでは, 新人准看護師と看護師は, 同じ研修内容と到達目標となっている。

有床診療所や中小病院に勤務する准看護師は, 新人看護職員研修の受講機会に恵まれていない。准看護師が医療現場で担っている役割や昨今の医療の進歩等を踏まえ, 准看護師の教育研修体制の充実を図ることが, 医療安全の確保の観点から, 極めて重要である。そのため, 日医では, 准看護師の能力開発支援を目的として, 厚労省が作成した新人看護職員研修ガイドラインの基本方針に準拠し, 日医において新人准看護師に特化した新人看護職員研修における新人准看護師の技術到達目標の目安(試案)を作成した。試案は現在, 日医内で内容を検討しているので, 完成次第報告する。

この試案では, 准看護師の養成課程における収集すべき看護基礎技術と卒業時の到達度を確認すると共に, 看護師養成課程における看護基礎技術と卒業時の到達度を確認し, 比較できるようにしている。また, 診療の補助行為については, 到達目標を少し緩やかにし, 療養上の世話を看護師と同じ到達目標にして

いる。

5 . 意見交換及び諸問題に関する協議

日本医師会常任理事 藤川謙二

都道府県医師会及び医師会立看護学校等から予め提出された意見や要望に対し、日医と厚労省より見解が示された。

1) 看護師等養成所の入学時定員超過の緩和について

厚労省岩澤看護課長 看護師等養成所の運営に関する指導要領において、各養成所の学則で入学定員を定めるように規定しているが、入学辞退者の見込みの違いや留年及び復学などにより入学定員を超過する場合は、やむを得ないと考える。ただ、複数年にわたって大幅に定員を超えて入学させなければならない場合は、その理由と対応策を明確にする必要がある。

2) 厚労省からの看護師等養成所運営費補助金増額の要望について

厚労省岩澤看護課長 年金・医療費の自然増、公共事業費の1割削減の中、なんとか前年度と同額を平成 25年度予算案に計上している。

3) 医師会立看護学校に対する日医独自の助成について

日医藤川常任理事 平成 24年度は、准看護

師課程 16万円(前年度 1万円増額)、看護師課程 5万円(前年度同額)を助成した。平成 25年度は、看護師課程を 10万円に増額する予定である。

4) 准看護師試験と看護師国家試験の同一日実施について

日医藤川常任理事 准看護師試験日は都道府県の判断で決まる。看護師課程の学生も准看護師試験を受験することが可能であることから、准看護師試験の機会も与えるべきである。

5) 准看護師制度の存続について

厚労省岩澤看護課長 准看護師は地域医療を支える重要な担い手であり、准看護師養成所をなくしてしまうことは考えられない。

6) 看護職員の確保のための職業紹介事業所利用について

厚労省岩澤看護課長 この事業所を利用して看護職員を確保する医療機関や職探しをする看護職員が増えているが、中には高額な紹介料を請求する例や適切な紹介を行っていないと疑われる事業所があると聞く。不適切な事業所があれば都道府県労働局に相談をお願いしたい。

出席者 - 佐々木理事、喜入主事

お知らせ

宮崎県医師会役員等の補欠選挙のご案内 (第 158回宮崎県医師会定例代議員会の開催について)

公益社団法人宮崎県医師会は、定款第 21・ 32・ 33・ 34・ 39・ 54条，施行細則第 11・ 19・ 20・ 2条及び選挙細則第 1・ 2・ 3・ 4・ 5・ 7条並びに日本医師会定款第 14・ 15・ 16条の規定に基づき，第 158回定例代議員会に於いて下記の選挙を行います。

- 宮崎県医師会理事の欠員に伴う補欠選挙(1名)
- 宮崎県医師会裁定委員の欠員に伴う補欠選挙(1名)
- 日本医師会代議員の欠員に伴う補欠選挙(1名)

宮崎県医師会理事並びに裁定委員の任期は，平成 26年 6月に開催予定の定例代議員会終結の時まで，日本医師会代議員は平成 26年 6月に開催予定の日本医師会定例代議員会開催日前日までとなります。

選挙施行期日及び場所

第 158回宮崎県医師会定例代議員会

期日：平成 25年 6月 15日(土) 15: 45~

場所：宮崎県医師会館

立候補届出及び推薦届出について

- 1) 候補者になろうとする方は，選挙期日 7日前までの平日(今回は平成 25年 6月 7日(金)午後 5時まで)に，その旨を書面により，宮崎県医師会事務局を經由して会長に届け出てください。
- 2) 会員が他の会員を候補者として推薦する時は，候補者の承諾書を添え，前項に準じて届け出てください。
- 3) 立候補届出及び推薦届出には，候補者の経歴表を添付してください。

不明な点は，宮崎県医師会事務局(総務課)までお尋ねください。

平成 25年 5月 10日

公益社団法人 宮崎県医師会

医師国保組合だより

歩こう会に感謝
歩かずに唄いました宮崎市 いしかわ内科 いし石 かわ川 とも智 のぶ信, いし石 かわ川 まさこ万佐子

歩こう会から帰ってくるなり、「あー良かった。楽しかった」と、妻は上機嫌だった。

3月20日の当日は朝から激しい雨が降っていた。西都の都於郡城跡を歩くのが、医師国保組合主催で行われた今回の歩こう会のコースである。結構アップダウンが多いとのことで、右片麻痺のある妻にはカップを着ての歩行は無理だと考え、電話でキャンセルしようとする、妻は恨めし気だった。そんなに歩きたかったのと訊けば、歌を皆さんの前で唄いたかったとのことだった。そこで恥ずかしながら、歩くのはキャンセルし、引き続いて午後から予定されていた、綾に移動してのバーベキューだけに参加させていただいた。私もバーベキューを食べながらのビールのうまさを想像して、わくわくしながらタクシーで出かけた。

ところがバーベキューがなくなるといけないと焦る我が身の賤しさを天に諭されたのか、運転手が目的地を間違えて、綾城のある馬事公苑に連れて行かれた。しかし運よく、今年は桜の開花が早かったため、公苑の中も、遠くに見える山間も、見事なまでの淡いピンクの色彩に彩られていた。バーベキューの時間に遅れることも忘れながら、しばし花見を楽しんだ。妻はクモ膜下出血で倒れて以降、すべての日常生活にそれまでの3倍以上の時間を要するようになった。例えば、自宅から自院まで歩いて10分程度だったのが30分以上かかる。もっとも、一人で歩けるようになっただけでもありがたいことで

ある。しかし神様は、もっと素晴らしいチャンスを私達夫婦に与えて下さった。ゆっくりと移動せざるをえなくなったことで、今まで見えなかった自然の移ろいの素晴らしさを、より深く感じる事ができるようになった。だから妻は、あの見事な綾の桜の風景に、素直に感動していた。

何とか目的地にたどり着くと、幸いに乾杯はまだ始まっていなかった。席に座り、肉や野菜を焼く準備をしていると、妙に妻が落ち着かない。昨年、リハビリの一環で始めた絵画の個展を開いた際に作成した絵画集を、数冊持参してきていた。久しぶりにお会いする先生方に配ろうとしたものの、数が足りそうになく、誰に優先的に渡したらいいのか迷っていたようだ。多くの方々に、元気になったねと声をかけていただいた。久しぶりにお会いする先生方が多かった。妻はそれに応えようと、歌を披露させていただいた。なにせ言語中枢が破壊されたため、一曲の歌詞を覚えるのに数か月かかる。数少ないレパートリーを懸命に唄う姿に、私の酩酊した眼は緩みっぱなしだった。

復活を夢見ている妻にとって、昔の自分を知っている方々にお会いして、激励の言葉をいただくのが最大のエネルギーになっているようだ。

実際には歩かなかつたのに、今回の歩こう会に参加して一番楽しい時間を過ごさせていただいたのは、私達かもしれない。スタッフの皆様方に心より感謝を申し上げたい。

医師国保組合だより

平成 24 年度 宮崎県医師国民健康保険組合第 108 回通常組合会

と き 平成 25 年 3 月 15 日(金)

ところ 県医師会館

去る 3 月 15 日に第 108 回通常組合会が開催され、平成 25 年度の事業計画(案)、職員退職給与準備積立金の処分について、平成 24 年度歳入歳出補正予算(案)、平成 25 年度歳入歳出予算(案)、平成 25 年度法令遵守(コンプライアンス)のための実践計画(案)、規約の一部改正についての 6 議案が承認されたので、その概略を報告する。

1. 報 告

会務については、関係団体の協議会等への出席、理事会の開催等について、業務については、被保険者数と異動の内容、保険給付状況、保健事業の補助内容について報告した。

2. 議案第 1 号 平成 25 年度事業計画(案)について

事業計画については、基本的には前年度を踏襲しているが、新規事業として、従来の歯科健診に歯石除去とフッ素塗布を追加して実施したい。

また、創立 50 年を迎えた際に発行を予定していた記念誌について、来年度、「創立 50 周年記念誌」として取り組みたい旨説明し、承認された。

3. 議案第 2 号 職員退職給与準備積立金の処分について

職員退職者 1 名(H 24.12 末付)に対して、退職給与金の支給規程に基づき、積立金の一部を処分し、一般会計へ繰り入れし、その財源に充てることについて承認された。

4. 議案第 3 号 平成 24 年度歳入歳出補正予算(案)について

議案第 2 号の積立金の処分に関連し、平成 24 年度歳入歳出予算について案のとおり補正することについて承認された。

5. 議案第 4 号 平成 25 年度歳入歳出予算(案)について

歳入については、保険料が 2 億 9,100 万円で、歳入合計の約 50% を占め、国庫支出金が約 13%、繰越金が 34%、歳出については、保険給付費が 2 億 4,800 万円で 43%、後期高齢者支援金等が 16%、歳入・歳出合計 5 億 7,356 万 4,000 円の予算(前年度予算比較 5%減)について承認された。

6. 議案第 5 号 平成 25 年度宮崎県医師国民健康保険組合法令遵守(コンプライアンス)のための実践計画について

平成 25 年度の実践計画の策定について、原案どおり承認された。

7. 議案第 6 号 規約の一部改正について

第 15 条 役員任期については 2 箇年としていたところを、運用にあわせ、「2 箇年以内に終了する事業年度の最終のものに関する第 30 条第 4 号の承認を求める通常組合会の終結の時まで」とすること、第 5 条 特別積立金の中の新規加入組合員の特別積立金負担金の削除、第 7 条 組合員及び被保険者の範囲に、医療及び福祉の事業又は業務に従事するとの文言追加等が承認された。

平成 25年度宮崎県医師国民健康保険組合歳入歳出予算書

(歳 入)

(単位 円)

款	項	金額	構成比	
1 .国民健康保険料	1 .国民健康保険料	291,104,000	50.7%	
2 .一部負担金	1 .一部負担金	1,000	0.00%	
3 .分担金及び負担金	1 .負担金	0	0.00%	
4 .国庫支出金		76,507,000	13.34%	(100.00%)
	1 .国庫負担金	1,601,000		(2.09%)
	2 .国庫補助金	74,906,000		(97.9%)
5 .前期高齢者交付金	1 .前期高齢者交付金	2,000	0.00%	
6 .県支出金	1 .県補助金	2,000	0.00%	
7 .共同事業交付金	1 .共同事業交付金	4,000,000	0.70%	
8 .財産収入	1 .財産運用収入	1,700,000	0.30%	
9 .繰入金	1 .繰入金	5,000	0.00%	
10 .繰越金	1 .繰越金	200,000,000	34.87%	
11 .諸収入		243,000	0.04%	(100.00%)
	1 .加算金・延滞金及び過怠金	1,000		(0.41%)
	2 .預金利子	180,000		(74.07%)
	3 .雑収入	62,000		(25.51%)
歳 入	合 計	573,564,000	100.00%	

(歳 出)

(単位 : 円)

款	項	金額	構成比	
1 .組合会費	1 .組合会費	9,280,000	1.62%	
2 .総務費	1 .総務管理費	49,244,000	8.59%	
3 .保険給付費		248,002,000	43.24%	(100.00%)
	1 .療養諸費	222,850,000		(89.86%)
	2 .高額療養費	20,001,000		(8.00%)
	3 .移送費	1,000		(0.00%)
	4 .出産育児諸費	850,000		(0.34%)
	5 .葬祭諸費	1,500,000		(0.60%)
	6 .傷病諸費	2,800,000		(1.13%)
4 .後期高齢者支援金等	1 .後期高齢者支援金等	93,008,000	16.22%	
5 .前期高齢者納付金	1 .前期高齢者納付金	17,008,000	2.97%	
6 .老人保健拠出金	1 .老人保健拠出金	6,000	0.00%	
7 .介護納付金	1 .介護納付金	45,000,000	7.85%	
8 .共同事業拠出金	1 .共同事業拠出金	10,439,000	1.82%	
9 .保健事業費		25,410,000	4.43%	(100.00%)
	1 .特定健康診査等事業費	2,630,000		(10.35%)
	2 .保健事業費	22,780,000		(89.65%)
10 .積立金	1 .積立金	5,000	0.00%	
11 .公債費	1 .一般公債費	1,000	0.00%	
12 .諸支出金	1 .償還金及び還付加算金	2,000	0.00%	
13 .予備費	1 .予備費	76,159,000	13.28%	
歳 出	合 計	573,564,000	100.00%	

平成 25年 3月 15日

宮崎県医師国民健康保険組合
理事長 秦 喜八郎

出席組合会議員及び出席役員は下記のとおり。

1. 出席組合会議員

1 番 市 来 能 成
2 番 猪 島 康 公
3 番 内 田 攻
4 番 高 村 一 志
5 番 田 崎 高 伸
6 番 谷 口 二 郎
8 番 原 田 雄 一
10 番 福 永 隆 幸
11 番 藤 木 浩
12 番 武 田 信 豊
13 番 出 水 善 文

14 番 野 邊 俊 文
15 番 山 田 孝 俊
16 番 大 岐 照 彦
17 番 富 田 精 一 郎
19 番 江 崎 豊
21 番 大 久 保 史 明
22 番 水 野 智 秀
23 番 坂 田 師 隣
25 番 松 田 虎 洋
26 番 花 田 武 浩
27 番 立 山 洋 司

2. 出席理事

理 事 長 秦 喜 八 郎
副 理 事 長 大 坪 睦 郎
副 理 事 長 河 野 雅 行
常 務 理 事 高 橋 政 見
理 事 濱 田 政 雄
理 事 石 川 智 信
理 事 矢 野 裕 士

3. 出席監事

監 事 棚 田 敏 文
監 事 山 路 健

告 知

第 158 回 宮 崎 県 医 師 会 定 例 代 議 員 会 開 催

と き 平成 25 年 6 月 15 日 (土) 15: 45~
と ころ 宮 崎 県 医 師 会 館

次 第

1. 議 長 開 会 宣 言
2. 議 事 録 署 名 人 選 出
3. 県 医 師 会 長 挨拶
4. 報 告
5. 議 事 (役 員 等 補 欠 選 挙 含 む)
6. 協 議
7. そ の 他
8. 議 長 閉 会 宣 言

ご 案 内

第 70 回 総 会 を 開 催 し , 各 種 表 彰 等 を 行 い ま す の で ,
是 非 ご 出 席 く だ さ い 。

平 成 25 年 度 第 70 回 宮 崎 県 医 師 会 総 会

と き 平成 25 年 6 月 15 日 (土) 17: 00~ 17 50
と ころ 宮 崎 県 医 師 会 館 2 階 研 修 室

次 第

1. 開 会
 2. 物 故 会 員 に 対 す る 弔 意 黙 禱
 3. 県 医 師 会 長 挨拶
 4. 来 賓 祝 辞 及 び 来 賓 紹 介 (祝 電 披 露)
 5. 各 種 表 彰 祝 賀
 6. 閉 会
- クールビズでの開催となります。

お知らせ

宮崎県医師会・医師国保組合・
医師協同組合事務局職員配置

平成 25年 4月 1日付の人事異動により，下記のような配置になりましたのでお知らせします。

所 属	役 職 名	氏 名
医 師 会 事 務 局 長		大 重 裕 美
総 務 課	課 長	竹 崎 栄 一 郎
	係 長	牧 野 諭
	主 事	喜 入 美 香
	嘱 託	立 山 幸 恵
経 理 課	課 長	與 俊 弘
	課 長 補 佐	大 野 正 博
	係 長	松 本 優 美
	主 事	串 間 恵 子
学 術 広 報 課	課 長	久 永 夏 樹
	主 事	高 山 ゆ う
	主 事	田 崎 圭 一 郎
	嘱 託	瀬 戸 山 千 春
	嘱 託 (情 報 コ ー ナ ー)	平 川 ゆ う 子
治 験 促 進 セ ン タ ー	嘱 託 (業 務 課 長)	輝 波 子
	嘱 託	河 野 和 子
地 域 医 療 課	課 長	小 川 道 隆
	係 長	野 尻 早 苗
	係 長	鳥 井 元 進 一
	主 事	力 衛 通 裕
	嘱 託	藤 井 陽 子
医 師 国 保 組 合	事 務 局 長	大 重 裕 美
	課 長	杉 田 秀 博
	係 長	湯 浅 和 代
	嘱 託	眞 竹 尚 子
医 師 協 同 組 合	事 務 局 長	大 重 裕 美
	事 務 長 (購 買 課 長 兼 務)	榎 本 愼 司
	事 務 次 長 (保 険 課 長 兼 務)	岩 村 繁 徳
	係 長	安 井 順 子
	係 長	渡 邊 純 子
	主 事	竹 本 伸 代
嘱 託	宗 守 沙 樹	

日医インターネットニュースから

医学会の「法人化」に懸念の声 横倉会長「慎重に進める」

3月31日の日本医師会の定例代議員会で、日本医学会の法人化に懸念を示す意見が上がった。今村聡副会長は医学会の法人化の意向について「分離、独立と捉えるのではなく、主たる役割の異なる日医と医学会が新たな体制づくりに向けた議論を行うきっかけとすべき」と述べた。横倉義武会長は代議員の中にもまだ疑問点が数多くあるとし、「医学会と慎重に打ち合わせし、その経緯を知らせながら進めたい。何かあれば申し出てほしい」と述べ、理解を求めた。

今村副会長は法律的に法人化を止めることはできないと説明。医学会が法人化したとしても日医が学術団体であることには変わりないと強調し、日医の弱体化にはつながらないとした。会内では定款・諸規程検討委員会で検討を進めており、今回の委員会では医学会の高久史磨会長らと意見交換する予定とした。

大阪府医の久禮文雄代議員は都道府県医は勤務医会員の確保に苦勞していると訴え、医学会が日医の傘下ではなく単独の団体となれば勤務医は医学会にだけ加盟するのではないかと疑問を示した。今村副会長は、日医の会員は現在もそれぞれ専門の学会に加盟していると、日医への加盟を促していくことに変わりはないと答えた。

埼玉県医の金井忠男代議員は、法人化を前提として医学会と協議する必要があると主張し、協議状況をたじた。今村副会長は具体的な協議は今後進めていくとした上で、高久会長からはこれまで通りの支援を継続してほしいと要望を受けていると説明。方針については定款・諸規程検討委員会の検討を踏まえた上で進める考えを示した。（平成 25年 4月 2日）

医療事故の報告件数、増加基調が継続 機能評価機構四半期調査

日本医療機能評価機構は3月28日、2012年10月から12月までの医療事故とヒヤリ・ハット事例をまとめた報告書を発表した。報告された医療事故件数は795件で、前年同期に比べ200件ほど多く、過去最大となった7～9月期に次ぐ報告件数。12年を通しての集計でも合計2,882件と過去最多となり、同機構は報告が定着したことで増加基調が継続していると評した。

12年通年の報告数では、整形外科364件(11.5%)に次いで精神科217件(6.9%)が多いことが特徴としている。

血液凝固阻止剤は投与開始前に注意
今回は事故事例として、血液凝固阻止剤、抗

血小板剤投与下での観血的医療行為に関連した医療事故を取り上げた。これらの薬剤の使用では、特に投与の開始時と継続時に事故発生が多く、死亡や障害残存の可能性がある事故の割合が高いとしている。発生要因として多いのは、「確認」が不足していることで過量投与や未投与を招くケースだった。最も件数が多かった「ヘパリン」などをハイリスク薬として十分に認識し、慎重な取り扱いが望まれるとしている。

頻発する医療事故に関心集まる
医療安全情報のウェブ公開では、繰り返し発生している事例を集めた号のアクセスが多かった。ここ3年でアクセスが最多だったのは、人工呼吸器装着中の患者を移送する際に酸素ボンベの残量がゼロになる「酸素残量の未確認」だった。（平成 25年 4月 2日）

予防接種法改正案が成立 3ワクチン定期接種に

任意接種の子宮頸がん、Hib、小児用肺炎球菌の3ワクチンを2013年度から定期接種化する予防接種法改正案が、3月29日の参院本会議で賛成多数で可決、成立した。水痘、おたふくかぜ、成人用肺炎球菌、B型肝炎の4ワクチンの定期接種化について13年度末までに結論を得るなどとした付帯決議が付いている。（平成 25年 4月 2日）

公益社団法人移行を受けて 横倉会長

日本医師会が本年4月1日、公益社団法人へ移行したことを受け、横倉会長は、4月2日の定例記者会見で、「日医は今後も、『国民医療体制の確立』『安全な医療提供の推進』『保健活動を通じた国民の健康確保』『会員医療機関の経営の安定化』等を目的とした、様々な公益的活動を深化させていく」と述べた。その上で、『国民と共に歩む専門家集団としての医師会』との自覚を新たにし、真に国民に求められる保健・医療・福祉の実現に向けて努力していく意向を示し、理解と協力を求めた。

同会長は、まず、新公益法人制度の施行により、従来の公益法人が新たな公益法人か一般法人かへの移行を迫られる中で、日医が、新制度施行当初より、一貫して、「わが国の医学・医療を牽引する唯一の医師の職能集団として、国民の信頼に添えていくためにも、社会的信用の高い公益法人を目指すべき」との思いできたことを説明した。

一方、昨今の医療を取り巻く環境を見てみると、長年にわたる厳しい経済状況の影響などから、国が財政優先の施策を次々と打ち出してお

り、国民の安心と安全を支えてきた国民皆保険が、大きく揺らぎ、脅かされてきているとして危惧を示すと共に、世界に類を見ない高齢化の進行と相まって、地域における医療・介護・福祉資源が脆弱化し、地域医療の再興が喫緊の課題だと指摘した。

その上で、国の医療政策が誤った方向に進まないよう注視しながら、「国民の安全な医療に資する政策か」「公的医療保険による国民皆保険は堅持できる政策か」を政策の判断基準として、政府との協働に臨んでいく考えを示した。

更に、高齢化社会に対応した医療の在り方として、「かかりつけ医機能」を中心とした在宅医療の推進と、地域包括ケアシステムの構築に取り組むなかで、地域医療の再興に努めていくとした。（平成 25年 4月 5日）

医師不足対策で「地域医療再興講座」を 横倉会長

横倉会長は 4月 19日の社会保障制度改革国民会議に出席し、かかりつけ医を中心とした切れ目のない医療・介護の提供に関する「医療提供体制の改革」をはじめ、「生涯保健事業の体系化」「医師不足・偏在解消」「収入に応じた負担の公平化」など日医が重視する課題や取組みを説明した。このうち「一番の問題」と指摘した医師不足・偏在対策では、地域医療に従事する医師の確保に関する試案を提示。医師不足地域の医学部に「地域医療再興講座」を設置するなど、大学医学部の役割・身分を保障しキャリアアップにつなげる。同講座は国が通常の外数（別枠上乘せ）で運営費交付金や私学助成金を全額措置する。国が同講座の医師の採用を全面的に支援するなどの手順を説明した。

また、個人情報データの厳格な管理を前提に国民の健康情報を一元的に管理し、一次予防から三次予防までの保健事業を国民のライフサイクルに応じて「生涯保健事業」として実施すべきと訴えた。（平成 25年 4月 23日）

消費税 10%の対応、診療報酬では困難 自民 PT・野田座長

自民党が 4月 12日に立ち上げた「医療と税制に関する PT」で座長を務める野田毅衆院議員は 18日、メディファクスのインタビューに応じ、控除対象外消費税への問題意識や診療報酬制度の在り方など、今後の同 PTの論点について考え方を語った。

消費税率 10%時点の控除対象外消費税への対応については「診療報酬体系の中で案配するのは難しい。そういう世界ではない」と、現状の診療報酬による補填を継続するのは困難との考えを示した。ただ「課税化を含めた議論はするが結論は分からない。まずは先入観を持たずに実態を把握することから始める」と、丁寧な議論を進める考えを示した。

同 PTは、税制調査会と社会保障制度に関する特命委員会の下に設置されている。野田座長は税調会長と特命委員会の委員長を兼務しており、PTでも座長を務める。PTで論点になるのは医療に関する税制全般のほか、診療報酬制度の在り方や医療提供体制など。控除対象外消費税問題は税調で継続議論する方針になっていたが「医療と消費税の関係については全て PTで検討する」（野田座長）としている。

野田座長は消費税率 8%時点の対応について「改正消費税法には、高額投資は区分して措置を検討するという表現がある」と述べつつも、「10%までそれでカバーするとは言い切っていない」と指摘。10%時点の対応の結論を出す時期は「早く理解が進んだ方がよい問題なので、できれば年末の税制改正大綱策定時に間に合えばよい」と語った。医療提供体制に関しては「例えば有床診療所を再評価する必要がある」と例示した。

次期診療報酬改定率の議論は「本来は厚生労働部会のテーマだが、税率 8%への引き上げ時と重なることもあり PTとも関係する」とみる。改定率の決め方に過去の厚生労働大臣経験者が関与する手法は「一度変えた方がいい」との認識を示した。（平成 25年 4月 23日）

このコーナーの記事は“日医インターネットニュース”から抜粋して掲載していますので、詳細を知りたい方は日本医師会ホームページをご覧ください。毎週火・金に更新していますので全ての記事が閲覧できます。

日医インターネットニュースへのアクセス方法

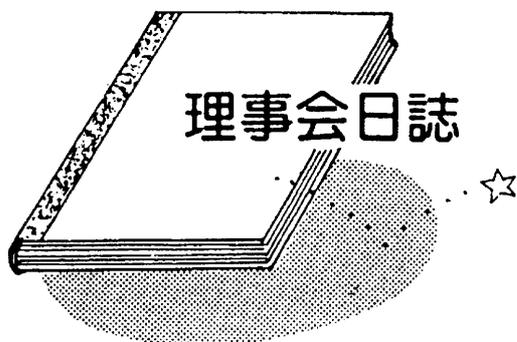
日本医師会 (<http://www.med.or.jp/>) にアクセス

日本医師会ホームページ右上のメンバーズルームをクリック

メンバーズルームに入る方法

ユーザー ID 会員 ID 番号(日医からの送付物の宛名シール下部に印刷されている 10桁の数字)を 0 も含め、全て半角で入力

パスワード 先生の生年月日の 6 桁の数字を半角で入力
例) 193年 5月 1 日 生まれの場合、310501



平成 25年 3月 12日(火) 第 3 回理事会

医師会関係

(議決事項)

1. 平成 25年度宮崎県医師会事業計画に関する件

立元常任理事から、定款第 6 条で「本会の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする」と規定されていることから、本理事会に事業計画を提出させていただくとの説明があり、資料を基に重点項目等の確認が行われ、審議の結果、出席者全員の賛成をもって原案通り可決承認された。

2. 平成 25年度宮崎県医師会収支予算に関する件

吉田常任理事から、収支予算書(正味)、資金収支予算書、内訳表等を基に説明が行われ、経常収益計 4 億 3,262 万円、経常費用計 4 億 1,600 万 7 千円の当期計上増減額 1,661 万 3 千円を見込んでおり、資金ベースでは、減価償却、長期借入金返済支出等を勘案した結果、286 万円の増となる。また、公益目的事業の費用は 2 億 7,989 万 6 千円で公益目

的事業比率は 67.28% となることから、条件の 50% をクリアする。収益事業の経常増減額 91 万 1 千円の 50% を公益に充当しても、223 万円のマイナスとなるため、収支相償も充たす等の説明があり、審議の結果、出席者全員の賛成をもって、原案通り可決承認された。

3. 常任理事の選定に関する件

立元常任理事から、昨年 10 月 25 日の佐藤雄一先生の急逝により、常任理事が 9 名から 8 名に減員された状態が続いている。定款第 36 条で「理事会は、会長、副会長、常任理事を選定及び解職する」と規定されていることから、今回、現理事の金丸吉昌先生を常任理事に選定することを提案するとの説明があり、審議の結果、出席者全員の賛成をもって可決承認された。

4. 常任理事の業務に関する件

立元常任理事から、定款第 3 条、第 5 項で「常任理事は、理事会の決議により、分担して業務を執行する」と規程されていることから、故佐藤雄一先生の担当していた業務を中心に見直しを行いたいとの説明があり、理事者を含めた業務分担の変更案について、資料を基に審議した結果、出席者全員の賛成をもって、原案通り可決承認された。

5. 職務の代行順位に関する件

立元常任理事から、定款第 3 条、第 7 項で「会長及び副会長が欠けたとき又は会長及び副会長に事故があるときは、常任理事は、あらかじめ理事会の決議により定めた順位により、会長の職務(本会を代表するものを除く)を代行する」と規程されていることから、金丸常任理事を加えた新たな代行順位の確認をお願いしたいとの説明があり、資料を基に審議した結果、名簿の順番をもって代行順位とすることが、出席者全員の賛

成をもって可決承認された。

(協議事項)

1. 会費減免申請について

20年以上在籍かつ満年齢 80歳に達しているとして、高齢による会費減免(県医)1件が承認された。

2. 地域医療再生基金(平成 24年度第一次補正予算)に伴う「地域医療再生計画」への事業提案について

日本経済再生に向けた緊急経済対策により、地域医療再生基金の不足分を補うことを目的に行われる追加の交付金で、事業対象は、平成 25年度末までに開始する災害医療対策、医師確保、在宅医療推進であること等の説明が行われ、今後、各都市医師会から出された事業を中心に検討を行い、県医師会として提案することが承認された。

3. 地域リハビリテーション広域支援センター事業実施機関の推薦について

寝たきり予防とリハビリテーション従事者の育成及び支援、関係機関の連携を目的に、医療圏毎に 1施設を指定するもので、日南串間を除く 6 医療圏について、引き続き現行施設を推薦することが承認された。

4. 平成 25年度女性医師就労環境改善事業費補助金の説明会について

女性医師の離職防止・復職支援を行っている医療機関を対象に行われる補助事業で、事業説明及び具体的な医療機関の取り組み事例発表を中心とした説明会を開催することが承認された。

5. 宮崎県医師国保組合理事の推薦について

佐藤雄一先生の急逝に伴い、後任理事の推薦依頼があり、高村一志先生を推薦することが承認された。

(報告事項)

1. 週間報告について

2. 3 /9(土)シーガイア)九医連常任委員会について

3. 3 /10(日)宮崎CC)九医連親善ゴルフ大会について

4. 3 /11(月)宮大医学部)研修管理委員会について

5. 3 /8(金)日医)日医地域医療対策委員会について

6. 3 /9(土)シーガイア)九州ブロック日医代議員連絡会議について

7. 3 /6(水)日医)医療政策シンポジウムについて

8. 3 /11(月)県庁)県准看護師試験委員会について

9. 3 /7(木)日医)「2020.30」推進懇話会について

10. 3 /4(月)県医)医学会誌編集委員会について
医師連盟関係

(協議事項)

1. 3 /23(土)JA AZM 別館)自民党宮崎県支部連合総務会の開催について

県連定期大会及び平成 25年度の予算を協議する会で、諸行事を調整し、稲倉委員長が出席することが承認された。

平成 25年 3月 19日(火)第 32回常任理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 4 /13(土)沖縄)九州医師会連合会第 33回常任委員会の開催について

平成 25年度、沖縄県医師会が九医連担当になり、初めて開催される常任委員会で、稲倉会長が出席することが承認された。なお、提出議題等については、稲倉会長に一任することとなった。

2. 4 /17(日医)平成 25年度医療基本法(仮称)に関する都道府県医師会担当理事連絡協議会の開催について

医療基本法問題に関する背景や、医事法関係検討委員会が作成した具体的提言及び医療基本法草案等の説明のため、初めて開催される担当理事者会で、立元常任理事が出席することが承認された。

3. 第 68回日本消化器外科学会総会に対する寄付について

宮崎大学医学部の千々岩一男教授を会長に、7 /17(水)~ 19(金)、シーガイアコンベンションセンターを中心に開催される学会で、趣旨に賛同し協力を行うことが承認された。

4. 業務委託について

肝炎ウイルスに関する検査事業の委託契約について

昨年に比べHCV抗原検査が省略されたことから、各検査項目における委託単価の見直しを行った上で、契約を締結することが承認された。

5. 後援・共催名義等使用許可について

「看護の日」行事「みやざきナースToday 2013」の後援について

県民に看護についての関心や理解を深めてもらうことを目的に、県内7地区で血圧測定や健康相談等を行う事業で、名義後援を行うことが承認された。

(報告事項)

1. 週間報告について

2. 3 /18(県庁)県防災会議について

3. 3 /17(日医)日医在宅医療支援フォーラムについて

4. 3 /18(エアラインホテル)県産業保健連絡協議会等について

5. 3 /19(県医)治験理事会について

医師連盟関係

(議決事項)

1. 4 /13(沖縄)九州医連連絡会第 22回常任執行委員会の開催について

平成 25年度の九州医連連絡会の委員長、副委員長の互選等を主な議題に開催される常任執行委員会で、稲倉委員長が出席することが承認された。

平成 25年 3月 26日(火)第 15回全理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 宮崎大学創立 33(記念事業)について

記念事業支援の会が設置され、式典・祝賀会、講演会、記念誌の発行、記念施設の建設等の記念事業を予定しているもので、財源確保等を含め、県医師会として積極的に支援していくことが承認された。

2. 本会外の役員等の推薦について

宮崎大学医学部附属病院医師研修管理委員会委員の委嘱について

任期満了に伴う委員委嘱の依頼で、本院、協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設以外に所属する有識者として、引き続き稲倉会長を委員に委嘱することが承認された。

3. 後援・共催名義等使用許可について

5 /25(メディキット県民文化センター)認知症介護指導者東京ネットワーク(being)第 5 回九州大会in宮崎に対する後援名義使用許可申請について

「つながろう認知症介護 はじめよう宮崎から!!」をテーマに、県民、福祉・医療・行政関係者を対象に開催される九州大会で、名義後援を行うことが承認された。

5 /4(土)M R T m i c c 「私と自転車(仮題)」

- 足田智講演会の名義後援について
健康維持を考えた自転車の利用と交通安全を目的に、TBSのプロデューサーで宮崎県出身の足田智氏を講師に招き開催される講演会で、スポーツ医学の観点等も考慮し名義後援を承認した。
4. 会費減免申請について
規程の出産育児に関する項目に該当するとして、会費減免(日医・県医)1件が承認された。
5. 救命救急体制強化事業費補助金について
宮崎大学救命救急センターの逆搬送システムを構築する事業で、補助金の額が確定したことから、各郡市医師会に分配することが承認された。
6. 補正予算による地域医療再生計画について
各郡市医師会に照会した結果、6郡市医師会から15のテーマが提出されたことが報告されると共に県医師会から、災害時の水確保対策事業、災害時医療機関状況マップに関する事業、在宅療養実施情報共有・活用システムに関する事業の3事業を、引き続き開催される地域医療再生計画協議会に提案することが承認された。
7. 広報委員会委員の辞任に伴う新たな委員について
宮崎大学医学部医学科に所属する3名の委員について、医師国家試験等の関係から交代することが提案され承認された。なお任期は前任者の残任期間となる。
8. 平成25年度広域予防接種業務委託契約について
予防接種対象者が圏域を超えて接種できるように、県内の全市町村と契約を行うもので、予防接種法改正により追加される子宮頸がん、Hib、肺炎球菌を加えた形で契約を締結することが承認された。
9. 4月・5月の行事予定について
4月の追加行事と5月の行事の確認が行われた。
(報告事項)
1. 3/13(水) 支払基金)支払基金幹事会について
2. 3/18(水) 宮大)宮大経営協議会について
3. 3/19(水) 日医)日医理事会について
4. 3/22(土) 県医)県アイバンク協会理事会について
5. 3/25(水) 県庁)県障害者施策推進協議会について
6. 3/26(水) 九州厚生局宮崎事務所)九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について
7. 3/26(水) 県総合保健センター)県健康づくり協会評議員会について
8. 3/27(木) 県庁)県母子保健運営協議会について
9. 3/27(木) 県庁)県訪問看護推進協議会について
10. 3/25(水) 県庁)県地域・職域連携推進協議部会について
11. 3/25(水) 県庁)県災害医療関係者連絡会議について
12. 3/26(水) 県庁)県地域医療支援機構代表者会議他について
13. 3/22(金) 県庁)県寝たきり予防推進本部会議について
14. 3/23(土) 宮観ホテル)県医在宅医療協議会について
15. 3/27(木) 日医)都道府県医師会広報担当理事連絡協議会について
16. 3/25(水) 県医)女性医師就労環境改善事業費補助金説明会について
17. 3/14(水) 日医)都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会について
18. 3/24(水) 宮日会館)県民健康セミナーについて

19. 3 /15(日医) 都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会について

20. 3 /14(県医) 広報委員会について

21. 3 /22(県医) 広報委員会について

22. その他

平成 25年度医師会、医師国保、医師協同組合人事異動内示について

医師連盟関係

(報告事項)

1. 3 /23(JA AZM 別館) 自民党宮崎県支部連合会総務会について

平成 25年 4月 2日(火) 第 1 回常任理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について

宮崎県献血推進協議会委員の推薦について

県民の献血への理解を求め、血液事業の適正な運営を確保するために設置されている協議会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、引き続き古賀常任理事を推薦することが承認された。

HTLV -I(ヒトT細胞白血病ウイルス1型)

母子感染対策協議会委員の推薦について

事業の啓発と体制整備を目的に設置されている協議会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、県医師会として引き続き濱田常任理事を推薦することが承認され、産婦人科及び小児科については、各医会に人選をお願いすることとなった。

児童扶養手当の支給に関する障害判定囑託医の推薦について

任期満了に伴う推薦依頼で、精神障害、

肢体不自由障害、内部障害の3名の囑託医について、再任の方向で現職の先生方の意向を確認し、推薦を行うことが承認された。

2. 後援・共催名義等使用許可について

2013年度「在宅を支える多職種交流会」名義後援のお願いについて

「高齢者の多様な住まいと介護」をテーマに、在宅医療・在宅ケアを支える職種の方々を対象に開催される交流会で、名義後援を行うことが承認された。

3. 地域産業保健事業委託契約について

県内の労働者数50人未満の小規模事業所の労働者を対象に、健康相談窓口の開設、事業所の個別訪問等を行う事業で、契約を締結することが承認された。

(報告事項)

1. 3月末日現在の会員数について

2. 3 /27(宮崎労働局) 労災診療指導委員会について

3. 3 /31(日医) 九州ブロック日医代議員連絡会議について

4. 3 /31(日医) 日医定例代議員会・定例総会について

5. 3 /30(東京) 全医秘協常任委員会について

6. 3 /30(東京) 全医秘協運営委員会について

7. 4 /2(県医) 治験審査委員会について

医師連盟関係

(協議事項)

1. 4 /27(県医連) 執行委員会について

日本医師連盟羽生田たかし副委員長が来県するのに合わせ、宮崎空港のレセプションルームで執行委員会を開催することが提案され承認された。

平成 25年 4月 9日(火)第 2 回常任理事協議会

医師会関係
(協議事項)

1. 審査委員の推薦について

任期満了による委員の推薦依頼で、選任基準(内規)に従って選定を進めることを確認した。なお、県医師会から推薦する2名については、諸事情を勘案の上、先に照会を行っている郡市医師会の推薦を踏まえ決定することが承認された。

2. 本会外の役員等の推薦について

社会福祉法人宮崎社会福祉協議会理事の就任について

3月末に開催された宮崎県社会福祉協議会の評議員会において、既に選出されているもので、引き続き稲倉会長が理事に就任することを承諾した。

生活福祉資金「不動産担保型生活資金審査委員会」の委員への就任について

貸付審査等、生活福祉資金貸付制度の適正な運営を図るため設置されている委員会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、引き続き立元常任理事を推薦することが承認された。

宮崎大学医学部医の倫理委員会委員の推薦について

宮崎大学医学部における直接人間を対象とした医学の研究において、倫理的配慮を図ることを目的に設置されている委員会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、引き続き青木理事を推薦することが承認された。

3. 5/28(火)宮観ホテル)宮崎大学医学部教授等と宮崎県医師会役員等との懇談会開催について

毎年、地域医療の諸問題について意見交

換を行うことを目的に開催されている懇談会で、日程及びプログラムの確認が行われた。今回は、決算等を審議する理事会と重なるため、スタート時間を変更した上で、宮大学長をはじめとする関係者に案内することが承認された。

4. 九州医師会連合会会員数等について

新年度当初に実施される九医連の調査で、会員数等は事務局で確認後、報告することとなった。また、九医連常任委員並びに委員については、九医連会則により、常任委員は県医師会長、委員は日医代議員(本県は4名(1名欠員中))、県医代議員会議長(1名)及び県医師会理事3名以内となっていることから、規程の範囲内で選出することが承認された。

5. 6/7(金)鹿児島)平成 25年度(第 35回)九州各県保健医療福祉主管部長・九州各県医師会長合同会議の開催並びに提出議題について

稲倉会長の出席が承認された。また提出議題については、県境を越える災害医療に関する議題を提出することが提案され、その内容等については、稲倉会長に一任することとなった。

6. 地球温暖化防止対策(クールビズ)の実施について

昨年同様、日本医師会が5月1日から10月31日迄、クールビズ等の対応を行うことから、本会でも同様の期間、夏の軽装に取り組むことが提案され承認された。

7. 宮崎大学創立 33(三)記念事業の募金について

3月末の常任理事協議会で、財源確保等を含め積極的に支援していくことが承認されているが、医療機関への案内に先立ち、県医師会として募金を行うことが承認された。

8. 第 19回日本警察医会総会・学術講演会における協賛金について

大規模災害時における検案活動の重要性と困難さが再認識される中、技能と法医学知識の向上を目的に開催される全国大会で、協力をを行うことが承認された。

9. 妊婦及び乳児の健康診査並びに審査事務の委託契約について

妊婦健診については、14回計 107,610円、全額公費負担と一部公費負担の 2つの契約形式とし、乳児については 1回当たり 5,600円の委託料で契約を締結することが承認された。また 1回の審査事務委託料は昨年同様 50円とすることが承認された。

10. 5/17(金)～19日(仙台)第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会開催のご案内について

「新しい地域医療を拓く - がんばろう日本 -」をテーマに開催される全国大会で、金丸常任理事が出席することが承認された。

(報告事項)

1. 週間報告について
2. 3/2(水) 県総合保健センター 県健康づくり協会理事会について
3. 4/2(火) 日医 日医理事会について
4. 4/6(土) 県医 HTLV-1 母子感染対策事業従事者研修会について

医師連盟関係

(協議事項)

1. 自由民主党宮崎県支部連合会定期大会代議員名簿提出について
稲倉委員長を含め、役員を中心に 7名の代議員を選出することが承認された。

4月のベストセラー

1	色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年	村 上 春 樹	文 藝 春 秋
2	海賊とよばれた男(上)(下)	百 田 尚 樹	講 談 社
3	わりなき恋	岸 恵 子	幻 冬 舎
4	医者に殺されない47の心得	近 藤 誠	ア ス コ ム
5	空飛ぶ広報室	有 川 浩	幻 冬 舎
6	知の逆転	ジェームズ・ワトソンほか 吉成真由美 インタビュー・編)	N H K 出 版
7	舟を編む	三 浦 しをん	光 文 社
8	統計学が最強の学問である	西 内 啓	ダイヤモンド社
9	逆説の日本史 19 幕末年代史編	井 沢 元 彦	小 学 館
10	聞く力	阿 川 佐和子	文 藝 春 秋

県 医 の 動 き

(4月)

2	日医理事会(日医)会長) 治験審査委員会(富田副会長他) 第1回常任理事協議会(河野副会長他)	19	日医定款・諸規程検討委員会(日医) (立元常任理事) 保険医療機関の指導計画等打合せ(会長他)
4	県警察医会協議会	20	県産婦人科医会春期定時総会(濱田常任理事) 九医連監査・事務引継(会長他)
5	県産婦人科医会会計監査(濱田常任理事)	21	日本医師会副会長 羽生田たかし先生との意見 交換会(会長他)
6	H T L V -母子感染対策事業従事者研修会 (濱田常任理事)	22	県医連執行委員会(河野副会長他) 日医副会長羽生田たかし先生との交流会 (会長他) 広報委員会(荒木常任理事他)
7	全国医師協同組合連合会広報部会(東京) (立元常任理事)	23	医協理事会(会長他) 第1回全理事協議会(会長他) 医協理事・運営委員合同協議会(会長他)
9	第2回常任理事協議会(会長他)	24	労災診療指導委員会 日医有床診療所に関する検討委員会(日医) (河野副会長) 県内科医会医療保険委員会 県臨床研修運営協議会(会長他) 病院部会・医療法人部会合同理事会 (池井常任理事)
10	支払基金幹事会(会長)	25	ジェイエイフーズみやざきとの調印式(会長) 県外科医会全理事会
11	地域医療現場における働きやすい環境を考える 会検討会(荒木常任理事) 日医公衆衛生委員会(日医)吉田常任理事) 県産婦人科医会全理事会(濱田常任理事)	26	地域産業保健センターコーディネーター会議 (事務局) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 (河野副会長)
12	県プライマリ・ケア研究会学術広報委員会 (金丸常任理事)	27	日医生涯教育協力講座セミナー「心房細動と脳梗 塞」(会長他) 九医国保連事務引継(大分)秦理事長他)
13	男女共同参画公開シンポジウム(東京) (荒木常任理事) 九医連常任委員会(沖縄)会長)	28	九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会 (福岡)古賀常任理事)
15	広報委員会(富田副会長他)		
16	医協打合せ(立元常任理事) 第3回常任理事協議会(会長他) 母体保護法指定医師審査委員会(河野副会長他)		
17	全体課長会(事務局) 医療基本法(仮称)に関する都道府県医師会担当 理事連絡協議会(日医)立元常任理事) 西諸医師連盟訪問(会長)		
18	産業医部会理事会(会長他) 医師国保組合理事会(秦理事長他)		

追 悼 の こ と ば

延岡市医師会

夏吉新平先生

(大正9年10月27日生 92歳)

弔 辞

ここに、今は亡き夏吉新平先生のご葬儀が執り行われるにあたり、延岡市医師会を代表致しまして、謹んで哀悼の意を表し、お別れの言葉を申し上げます。

先生の突然の訃報に接し、余りにも思いもかけず、お亡くなりになったと知らされたときは、只々驚き、しばらくは信じられず、そして今は、私共医師会の重鎮ともいふべき先生を失った悲しみと、さみしさで申し上げる言葉もございません。

ましてや、奥様をはじめ、ご家族、ご遺族の方々、先生を慕われる多くの皆様方のお悲しみは如何ばかりかとお察し申し上げ、衷心よりお悔やみ申し上げます。

先生は、大正9年10月27日、大阪でお生まれになりました。以後医学の道を志になり、昭和28年、日本医科大学をご卒業されました。その後、福岡県築上郡椎田町宮部病院の勤務を経て、昭和35年に延岡保養園に勤務し、昭和50年に副院長に就任、平成5年には院長に就任し、長きにわたり地域住民の精神障害の診療や鑑定、保護等にご尽力され、延岡地域精神福祉協議会副会長も歴任されました。

また、僻地精神医療にも力を入れられ諸塚、日之影、五ヶ瀬、高千穂まで広域に足をのばし在宅患者を訪問し知識の普及、及び啓発に努められ数多くの患者の治療に専念し、僻地における精神保健医療にご尽力されました。これらのご功績により精神保健福祉に関する事業功労と

して、平成3年には県知事表彰、平成15年には厚生労働大臣表彰を受けられております。

さらには、ご多忙な診療の傍ら平成元年4月から延岡市立緑ヶ丘小学校、聖心ウルスラ学園高等学校、聖心ウルスラ学園短期大学の校医を歴任され、専門医の立場として多数の児童生徒の保健衛生、並びに健康管理の指導教育に多大なるご尽力を賜りました。これらのご功績により学校保健、学校安全に関する功労として、宮崎県医療功労者知事表彰を受けておられます。

また、先生は山男であり、日本医科大学在学中には山岳部に所属され、北アルプス未踏尾根を征服し、今なおその功績は「夏吉新平」の名前とともに日本登山史に刻まれております。

このような延岡市医師会の歴史の創設者の一員としておられました先生がご逝去なさいましたことは、会員にとりましてかけがえのない財産を失うことであり痛恨の極みであります。

本日、先生とお別れするにあたり、先生がこれまで地域医療に尽くしてこられたご功績を忘れることなく、先生のお示しいただきました医療に取り組む真摯なお姿を心に刻みながら、会員一同、地域医療の発展向上に向けて一層の努力をしていく所存でございます。

先生の温顔に再び接することは出来ませんが、奥様を始めご遺族の皆様のご安泰をお見守り頂きますようお願い申し上げます、黄泉旅が平穏でありますことを心よりお祈り申し上げお別れの言葉といたします。

夏吉新平先生、どうぞ安らかにお眠りください。

平成 25年 3月 15日

延岡市医師会

会長 牧野剛緒

追 悼 の こ と ば

宮崎市郡医師会

黒 水 啓 一 先生

(大正 9年 3月 20日生 93歳)

弔 辞

本日ここに、今は亡き黒水啓一先生の御霊前に、宮崎県医師会を代表して、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

一昨昨日、先生の突然の御訃報に接し、にわかには信じられず、会員一同、深い悲しみに包まれております。

先生には、近年お身体の不調を訴えられ、御療養を続けておられましたので、会員一同、一日も早い御回復を念じておりましたが、4月2日、午前10時25分、93歳の御生涯を静かに閉じられました。

今、こうして葬送の列に加わり、御遺族の皆様方、また先生を慕われる多くの皆様の御心中をお察し申し上げますとき、お悲しみは如何ばかりかと胸塞がる思いでございます。

先生は大正9年3月20日、宮崎市で6人兄弟の長男としてお生まれになり、幼少にしてその才誉れ高く、旧制宮崎中学校から慶應義塾大学医学部にご入学され、昭和19年9月に優秀な成績で御卒業になられた後、同大学整形外科教室研究員、昭和2年から同大学皮膚科・泌尿器科教室に御入局され、その間、東京都篠原外科病院などにおいて幾多の御研鑽を積まれました。

昭和23年7月、現在地の宮崎市旭一丁目に黒水医院を御開業になり、平成25年3月の閉院まで、64年有余の永きに亘り昼夜を分かたぬ御診療をもって、地域医療ひと筋にお過ごしになら

れました。先生の誠実で飾り気のない、そして温かいお人柄は、地域の人々にも親しまれ、多くの患者さんからの信望を集めて、地域に根ざした診療活動を展開され、我々医師会員にとりまして、正に範たるものでありました。

先生の御活躍の場は、日常の御診療だけにとどまらず、その卓越した識見と指導力をもって、医師会活動全般にわたって御指導をいただきました。昭和26年に宮崎市郡医師会理事に御就任され理事2年、更には同副会長6年、昭和49年から昭和53年まで2期に亘って宮崎市郡医師会長として、宮崎市郡における救急医療・保健、看護師養成、公衆衛生等の向上に御尽力いただきました。

また、昭和28年から、宮崎県医師会理事8年、昭和53年4月から昭和59年3月まで、宮崎県医師会長として3期6年に亘って、まさに、宮崎県の地域医療を守る要として、本会の礎をお築き頂きました。

その間、昭和55年には、九州医師会連合会会長として第80回九州医師会医学会を主宰し、日本医師会理事及び日本医師会代議員等の要職を歴任され、医師会の発展、国民医療の向上、推進に献身的に御尽力いただいております。

先生の長年に亘る輝かしい御業績は、昭和58年、宮崎県知事表彰、昭和62年厚生労働大臣表彰、更には平成4年、勲四等瑞宝章の栄誉をもって顕彰されております。

一方、先生は御診療のかたわら、ゴルフを御趣味とされ友人とよくラウンドされ、慶応大学時代はボート部でご活躍されていたとお聞きしております。

私ども会員にとりまして、先生の御逝去は誠に残念至極に存じますが、これまで先生の御遺徳を心の支えとして地域医療の発展のため、

努力してゆく所存でございます。

どうぞ御遺族の行く末に御加護あらんことを
お祈りいたしますと共に、私達をいつまでもお
見守りくださいますようお願い申し上げます。

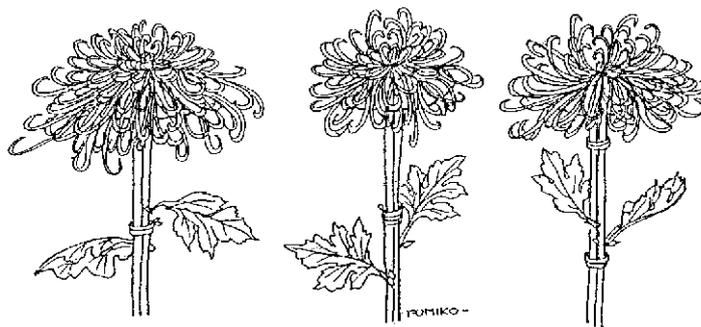
ここに先生の御功績をたたえ、心から御冥福
をお祈りいたしまして、お別れの言葉といたし

ます。黒水 啓一先生，どうぞ安らかに眠り下
さい。

平成 25年 4月 5日

宮崎県医師会

会長 稲 倉 正 孝



追 悼 の こ と ば

宮崎市郡医師会

下 村 雅 伯 先生

(昭和 17年 3月 16日生 7歳)

弔 辞

本日、ここに故 下村雅伯先生の告別式が執り行われるにあたり、宮崎市郡医師会を代表して、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

先生は、近年、お身体の不調を訴えられ、入退院の

上、御療養中でありましたので、一日も早い御回復を念じておりましたが、御病状が急変し4月2日、午後1時32分、7歳の御生涯を静かにとじられました。先生の突然の御訃報に接し、会員一同深い悲しみに包まれております。

今、こうして葬送の列に加わり、奥様はじめ御親族の皆様方の御心中をお察し申し上げますとき、お悲しみは如何ばかりかと胸塞がる思いでございます。

先生は、昭和 17年 3月 16日に西諸県郡高原町でお生まれになり、多感な少年時代をお過ごしになられました。幼少にしてその才、誉れ高く、長じて医学の道に志を立てられ、宮崎県立小林高等学校から久留米大学医学部に御入学され、昭和 43年 3月、同大学医学部を優秀な御成績で御卒業になりました。同年 4月から久留米大学医学部産婦人科学教室に副手として御入局され、昭和 47年に同教室助手、昭和 5年から講師として幾多の御研鑽を積み重ねました。その間、昭和 48年から、八女公立病院産婦人科医長、昭和 50年から国立小倉病院産婦人科医長、昭和 52年から、県立日南病院産婦人科医長として御勤務になられ、昭和 55年 2月、宮崎の地で御開業を決意され、宮崎市青葉町に下村産婦人科医院を御開業になりました。以来今日まで、33年有余の

歳月をひたすら医療現場の第一線において、昼夜の別なく献身的に御診療に従事され、明日を担う多くの新しい生命の誕生を見守られて、多くの母子に慈父の如く慕われてきました。その真面目なお人柄は、私ども医師会員にとりまして、正に範たるものでありました。

先生は、御多忙な御診療の傍ら、医師会活動にも積極的に御活躍いただき、平成 12年 4月から 3期 6年、宮崎市郡医師会理事に就任、以来、看護専門学校の副校長として看護学校の運営並びに看護師養成に御尽力いただきました。また、先生は平成 12年から 2期 4年、宮崎市郡産婦人科医会長を歴任され宮崎における産科医療向上に多大な御貢献をいただき、その御功績により、平成 25年 1月、産科医療功労として厚生労働大臣表彰をお受けになられました。

一方、先生は診療を離れましては、ゴルフを御趣味とされ、よく御友人とラウンドされ、ホールインワンを 2回達成されたこともあるとお聞きしております。また、大学時代は剣道部に所属されご活躍されておられました。

御家庭にありましては、2男1女のお子様に恵まれ、御次男の直也先生が、御継承されるとお聞きしておりますので、草葉の陰からしっかりと、御見守り、御導きされるものと拝察いたします。

下村先生、惜別の情つくし得ませんが、ここに謹んで先生の御霊前に哀悼の意を捧げ、産科医療に対する永年の御貢献に心から感謝と敬意を表し、御冥福をお祈り申し上げお別れの言葉といたします。

先生、安らかにお眠りください。

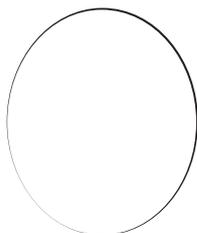
平成 25年 4月 6日

宮崎市郡医師会

会長 川 名 隆 司

ニューメンバー

宮崎市

 おおつかのぶあき
 大塚伸昭


住 所 宮崎市

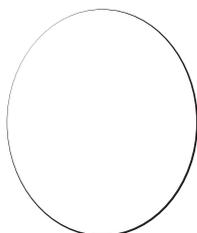
専門科目 循環器(心臓)内科

家族構成 妻, 長女(28歳),
次女(2歳), 長男(25歳)

略 歴
 昭和 46年 県立宮崎大宮高等学校
 卒業
 昭和 53年 鹿児島大学医学部卒業
 同 年 宮崎医科大学第1内科入局

趣 味 スキューバダイビング,
釣り他多数

抱 負 現在は, 民間企業の産業医をしていますが, 昨年12月1日付で1数年ぶりの医師会再入会となりました。臨床を長い間離れていましたが, その間客観的な立場 患者サイド から医療機関を見ることが出来たのは私にとって大きな収穫だったと思っています。以前のように臨床現場で思う存分, 力を発揮する事は出来ないとは思いますが, 一般の方や看護師等の医学教育に関わる事が出来れば人生の最後を締めくくれるのではないかと考えています。

宮崎市
古賀総合病院
 ちようさのぶあき
 帖佐宣昭


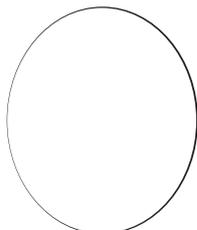
住 所 宮崎市

専門科目 皮膚科

家族構成 妻, 子ども3人

略 歴
 平成 4年 県立宮崎西高等学校卒業
 平成 10年 宮崎医科大学卒業
 同 年 宮崎医科大学皮膚科入局
 平成 24年 社会医療法人同心会
 古賀総合病院

抱 負 平成10年度~平成23年度まで宮崎大学皮膚科学教室にお世話になりました。平成24年度から古賀総合病院皮膚科で働かせて頂いております。僅かにでも患者さんに貢献できたらと存じます。大変未熟者ですが, 御指導御鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

都城市
国立病院機構都城病院
 なかむらたけし
 中村 雄


住 所 都城市

専門科目 耳鼻咽喉科

家族構成 妻

略 歴
 平成 14年 県立千葉東高校卒業
 平成 2年 宮崎大学医学部卒業
 同 年 宮崎大学医学部附属病院
 (臨床研修医)
 平成 23年 宮崎大学医学部
 耳鼻咽喉科入局

趣 味 硬式テニス

抱 負 平成2年10月より都城市の国立病院機構都城病院に勤務しております。医師になって5年目。まだまだ未熟者ではありますが, 諸先生方のご指導を賜りながら, より良い医療を患者様に提供できるように常に努力していきたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

「はまゆう随筆」原稿募集

7・8月号に夏の恒例となりました「はまゆう随筆」欄を企画致しますので奮ってご投稿をお願い致します。毎年皆様に大変ご好評のようです。

題 材：診療閑話，私の趣味，旅行記，スポーツ談義，詩，短歌，俳句など何でも結構です。なお，本文に関連した写真・イラスト等も掲載できます。

字 数：800字以内

締 切：6月29日(土)

投稿項目，タイトル，ご氏名を先頭に付記して下さい。

ご投稿の原稿が他誌に掲載，または投稿中の場合はその旨お知らせ下さい。

掲載については，広報委員会にご一任下さいますようお願い致します。

原則として原稿はお返し致しません。返送を希望される方はその旨ご指示下さい。

原稿の内容については，人権・プライバシーに十分な配慮をお願いします。

原稿は主にメールにて受け付けております。ワードまたはテキスト形式で作成・保存し，日州医事原稿専用アドレス(genko@m iyazaki.m ed.or.jp)宛お送りください。もちろん，それ以外の方法(FAX ，郵便等)でお送りいただいても構いません。

原稿送付・問合せ先

宮崎県医師会広報委員会 はまゆう随筆係

E m ail:genko@m iyazaki.m ed .or .jp

〒 880 - 0023 宮崎市和知川原 1 丁目 101

FAX 0985 - 27 - 6550 TEL 0985 - 22 - 5118

原稿送付の際は，他の原稿との混同を防ぐため「はまゆう随筆」である旨とタイトル，ご氏名を明記の上お送りください。

ドクターバンク情報

（無料職業紹介所）

平成 25年 4月 1日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。

お申込み、お問合せは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらしを紹介しておりますのでご覧ください。

1. 求職者登録数 4人

1) 男性医師求職登録数 4人 (人)

希望診療科目	求職数	常勤	非常勤
内 科	3	1	2
外 科	1	1	0

2. 斡旋成立件数 46人

	男性医師	女性医師	合計
平成 25 年 度	1	0	1
平成 16年度から累計	34	12	46

3. 求人登録 90件 331人 (人)

募集診療科目	求人数	常勤	非常勤
内 科	98	68	30
外 科	33	24	9
整 形 外 科	25	18	7
精 神 科	21	17	4
循 環 器 科	12	12	
脳 神 経 外 科	10	9	1
消 化 器 内 科	17	14	3
麻 酔 科	7	5	2
眼 科	9	7	2
放 射 線 科	6	6	
小 児 科	6	4	2
呼 吸 器 内 科	11	9	2
リハビリテーション科	3	3	
血 液 内 科	2	2	
神 経 内 科	10	9	1
救 命 救 急 科	5	5	
健 診	7	3	4
産 婦 人 科	4	4	
泌 尿 器 科	3	1	2
検 診	2		2
皮 膚 科	3	2	1
人 工 透 析	1	1	
耳 鼻 咽 喉 科	2	2	
そ の 他	34	29	5
合 計	331	254	77

求 人 登 録 者 (公 開)

求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、
無料職業紹介所(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
150005	医)わか会ピア・メンタル ささき病院	宮崎市	精	2	常勤・非常勤
160011	赤十字血液センター	宮崎市	検診	2	非常勤
160013	医)三晴会 金丸脳神経外科病院	宮崎市	脳整放麻内	9	常勤・非常勤
160017	医)prestピア プレストピアなんば病院	宮崎市	乳腺内	3	常勤
160020	財)弘潤会 野崎病院	宮崎市	精内	2	常勤
160031	社医)同心会 古賀総合病院	宮崎市	呼神内眼耳鼻総診呼外、 循臨病	9	常勤
160033	医)如月会 若草病院	宮崎市	内精	3	非常勤
170046	医)社団善仁会 市民の森病院	宮崎市	消内内分泌内呼リウマチ、 神経内健診	6	常勤・非常勤
170048	医)慶明会 けいめい記念病院	国富町	内眼	2	常勤
170052	医)春光会	宮崎市	外内	6	常勤・非常勤
180061	医)あいクリニック	宮崎市	精	2	常勤・非常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮崎市	内神内整	5	常勤
190087	宮崎市郡医師会病院	宮崎市	消内	3	常勤
190094	医)耕和会 迫田病院	宮崎市	内外	7	常勤・非常勤
190095	医)慶明会 宮崎中央眼科病院	宮崎市	眼	2	常勤・非常勤
190096	医)晴緑会 宮崎医療センター病院	宮崎市	消化麻循リハビリ	5	常勤・非常勤
200104	医)社団善仁会 宮崎善仁会病院	宮崎市	内外救急呼外婦人	7	常勤
200105	医)誠友会 南部病院	宮崎市	内外放	3	常勤
210110	医)幸秀会 大江整形外科病院	宮崎市	整	1	常勤
210118	慈英病院	宮崎市	内外整	12	常勤・非常勤
220126	八代医院	宮崎市	内	1	非常勤
230128	医)真愛会 高宮病院	宮崎市	内	1	常勤
230132	医)康友会 青島クリニック	宮崎市	内	1	常勤
230134	医)慈光会 宮崎若久病院	宮崎市	精	2	常勤
230139	介護老人保健施設サンフローラみやざき	国富町	内外	2	常勤
230140	医)将優会 クリニックうしたに	宮崎市	外内整家庭医総合臨床	1	常勤
230141	医)博愛社 佐土原病院	宮崎市	内	1	非常勤
230143	医)社団孝尋会 上田脳神経外科	宮崎市	脳外内	2	常勤
230144	宮崎生協病院	宮崎市	総内呼吸内消化器内、 健診	8	常勤・非常勤
250001	のぞみ医院	宮崎市	内	1	非常勤
160008	医)正立会 黒松病院	都城市	泌	1	非常勤
160010	特医)敬和会 戸嶋病院	都城市	内消内整神内	7	常勤・非常勤
160018	医)宏仁会 メディカルシティ東部病院	都城市	内救急放射脳外外、 総合眼透内	8	常勤
170056	医)社団アブラムクラブ ベテスタクリニック	都城市	循内脳外呼神内	5	常勤
170057	医)清陵会 隅病院	都城市	内外整	3	常勤
180064	国立病院機構都城病院	都城市	消内血内循内脳産婦、 耳鼻	9	常勤
180069	社)八日会 大悟病院	三股町	精内	2	常勤

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
180081	医)恵心会 永田病院	都 城 市	精	1	常勤
190092	都城市郡医師会病院	都 城 市	内呼	4	常勤
190093	社)八日会 藤元総合病院付属総合健診センター	都 城 市	内	2	常勤・非常勤
210113	医)邦楽会 河村医院	都 城 市	内	1	常勤
210114	社)八日会 藤元病院	都 城 市	精	2	常勤
230127	医)倫生会 三州病院	都 城 市	外,内,麻	9	常勤・非常勤
230133	介護老人保健施設すこやか苑	都 城 市	不問	1	常勤
230135	医)廣師会 信愛医院	都 城 市	内	1	常勤
230137	医)宏仁会 海老原内科	都 城 市	内	1	常勤
240142	医)魁成会 宮永病院	都 城 市	内,リハビリ	2	常勤
160012	医)伸和会 共立病院	延 岡 市	外,整,皮,放,内,消外	6	常勤
160021	医)建悠会 吉田病院	延 岡 市	精	2	常勤
160034	特医)健寿会 黒木病院	延 岡 市	外,内,緩ケア	6	常勤・非常勤
160036	医)久康会 平田東九州病院	延 岡 市	内,外,麻,精,神,内,脳,神経, 老,施,心,内	5	常勤・非常勤
190086	早田病院	延 岡 市	内	1	常勤
200100	医)育生会 井上病院	延 岡 市	産婦,内,小	3	常勤
200102	延岡市医師会病院	延 岡 市	消内	3	常勤
210109	延岡市夜間急病センター	延 岡 市	内,小	2	非常勤
210112	医)嘉祥会 岡村病院	延 岡 市	内	3	常勤・非常勤
160039	医)誠和会 和田病院	日 向 市	外,内,整,神,内	6	常勤
210111	宮崎県済生会 日向病院	門 川 町	内	3	常勤
230130	医)ラポール向洋	日 向 市	内	1	常勤
230131	医)向洋会 協和病院	日 向 市	内	1	常勤
160006	都農町国保病院	都 農 町	内,放,外,小	4	常勤
160023	医)宏仁会 海老原総合病院	高 鍋 町	整,内,心,内,眼,健診,循,脳	16	常勤・非常勤
170058	国立病院機構宮崎病院	川 南 町	呼,循,消,内,外	8	常勤
180077	医)聖山会 川南病院	川 南 町	眼,麻,脳	13	常勤・非常勤
160024	医)隆徳会 鶴田病院	西 都 市	内,外	2	常勤
150002	医)慶明会 おび中央病院	日 南 市	内	1	常勤
150003	医)同仁会 谷口病院	日 南 市	精,内,外	4	常勤
160022	医)愛鍼会 山元病院	日 南 市	内,消,内,神,内	3	常勤
160037	医)十善会 県南病院	串 間 市	精,内	1	常勤
170047	日南市立中部病院	日 南 市	内,神,内,整,リハビリ	4	常勤
180071	串間市民病院	串 間 市	腎,内	1	常勤
220124	医)月陽会 きよひで内科クリニック	日 南 市	内	4	常勤・非常勤
230129	医)秀英会 英医院	串 間 市	内	1	常勤
230138	小玉共立外科	日 南 市	不問	2	常勤・非常勤
160019	医)相愛会 桑原記念病院	小 林 市	内,整,皮膚	5	常勤・非常勤
170043	医)和芳会 小林中央眼科	小 林 市	眼	2	常勤・非常勤
180067	小林市立病院	小 林 市	循,救,急,産,婦,放,小	10	常勤
180076	医)友愛会 園田病院	小 林 市	外,内,整	7	常勤・非常勤
190090	特医)浩然会 内村病院	小 林 市	精	2	常勤
190091	医)友愛会 野尻中央病院	小 林 市	整,内	4	常勤・非常勤
170049	五ヶ瀬町国保病院	五ヶ瀬町	整	1	常勤
180070	高千穂町国保病院	高千穂町	内,神,内,循,内	3	常勤
190088	日之影町国保病院	日之影町	内,整	2	非常勤

病医院施設の譲渡・賃貸

譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成 25年 4月 17日現在

1 . 譲渡物件	宮崎市阿波岐ヶ原町前田 2633番 ,2634番 土地のみ : 593.57坪(2022.17㎡)
2 . 賃貸物件	宮崎市曾師町 209-3(旧 田川内科医院跡地) 建物 : 鉄筋コンクリート造 2 階建 1 階 183.35㎡ , 2 階 166.69㎡ 駐車場 : 10台分
	延岡市大門町 188-1(旧 白坂内科医院跡地) 建物 : 鉄筋造平屋建 205㎡ 駐車場 : 10台分

ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

- 1 . 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し，求職者は県外でも結構です。
- 2 . 紹介受付は，月～金の午前9時から12時及び13時から17時です。
- 3 . 申込み方法は，所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
- 4 . ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
- 5 . 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
- 6 . 斡旋成立時の紹介料は，「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先

ドクターバンク無料職業紹介所

〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10番地(宮崎県医師協同組合)

0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179

E-mail : isikyoubank@miyazakimed.or.jp

宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成 25年 4月 25日現在

5		月			
1	水	19 00 医家芸術展世話人会 19 00 宮崎市郡医師連盟訪問	18 土	8 50 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会	
2	木			14 30 勤務医部会理事会 15 30 勤務医部会総会・前期講演会	
3	金	(憲法記念日)			
4	土	(みどりの日)	19 日	7 50 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会	国 保
5	日	(こどもの日)	20 月	15 00 宮大学長選考会議	
6	月	(振替休日) 19 00 おぎゃー献金基金チャリティーコン サート	21 火	13 30 県腎臓バンク理事会 15 00 県学校保健会理事・評議員会 16 00 学校保健・学校安全に関する文 部科学大臣表彰及び県教育長表 彰推薦審査会	審 査
7	火	18 00 治験審査委員会 19 00 第4回常任理事協議会		18 20 医協打合会 19 00 第6回常任理事協議会	
8	水	15 30 東九州メディカルバレー構想宮崎県 推進会議 16 00 支払基金幹事会 19 00 県医師会労災部会監査 19 00 県内科医会会計監査 19 00 都城市北諸県郡医師連盟訪問		22 水	
9	木	18 30 児湯医師連盟訪問 19 00 県整形外科医会理事会	23 木	19 00 広報委員会 19 00 西都市西児湯医師連盟訪問	社 保
10	金	19 00 倫理向上・自浄作用活性化委員会	24 金	15 00 県医療審議会 18 30 県医会計監査	
11	土	14 30 産業医部会総会・研修会	25 土	16 30 九医連常任委員会 17 30 九医連定例委員総会 18 40 九州医連連絡会執行委員会	審 査
12	日			26 日	
13	月	19 00 勤務医部会理事会	27 月	19 00 女性医師委員会	社 保 審 査
14	火	14 00 (日医)日医理事会 17 00 日医・公益社団法人移行記念祝賀会 19 00 第5回常任理事協議会		18 00 九州地方社会保険医療協議会宮崎 部会 18 00 医協理事会 18 40 第1回理事会 終了後 医協理事・運営委員合同協議会 19 30 宮崎大学医学部教授等と県医師会役 員等との懇談会	
15	水	9 10 全体課長会(事務局) 18 30 医協会計監査		28 火	
16	木	13 30 社会保険医療担当者(医科)の個別 指導 19 30 広報委員会 19 30 県産婦人科医会常任理事会	29 水	15 00 労災診療指導委員会 19 00 県内科医会理事会	国 保 審 査
17	金	15 00 西日本シティ銀行特別講演会・ 記念パーティー 19 00 医師国保理事会 20 00 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会		30 木	
			31 金	14 30 九州地方社会保険医療協議会総会 19 00 南那珂医師連盟訪問	

都合により、変更になることがあります。

宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成 25年 4月 25日現在

6		月			
1	土	15 00 県整形外科医会役員・評議員会	14 金	↑ 国 保 審 査 ↓	
		15 00 県外科医会理事・評議員会	15 土		
		15 30 県整形外科医会総会			
		15 30 県外科医会総会			
		16 00 労災部会総会			
		16 45 県外科医会・県整形外科医会・労災部会合同学会			
2	日	17 月	19 30 広報委員会		
3	月	18 火	14 00 (日医)日医理事会	↑ 社 保 審 査 ↓	
4	火		18 20 医協打合会		
			19 00 第9回常任理事協議会		
5	水	19 水			
6	木	16 30 県腎臓バンク評議員会	20 木		
7	金	14 00 (日医)日本糖尿病対策推進会議総会	21 金	↑ 社 保 審 査 ↓	
		14 30 (日医)日医地域医療対策委員会	22 土		
		16 00 九医連常任委員会	23 日		9 30 (日医)日医定例代議員会
		17 00 九州各県保健医療福祉主管部長・九州各県医師会長合同会議			
17 30 宮大医学部附属病院マッチング説明会 & 県内基幹型臨床研修病院説明会	24 月	10 00 宮大経営協議会・学長選考会議 19 00 広報委員会			
8	土	16 00 県内科医会総会・特別講演会	25 火	↑ 社 保 審 査 ↓	
9	日				
10	月				
11	火	19 00 第8回常任理事協議会	26 水	15 00 労災診療指導委員会	
12	水	16 00 支払基金幹事会	27 木		
		19 30 日向市東臼杵郡医師連盟訪問	28 金		
13	木	13 00 (日医)日医定款・諸規程検討委員会	29 土		
		15 00 全国国保組合通常総会	30 日	10 00 レジナビフェア	

都合により、変更になることがあります。

医 学 会 ・ 講 演 会 日本医師会生涯教育講座認定学会

単位 日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC カリキュラムコード（当日，参加証を交付）

がん 各種がん検診登録・指定・更新による研修会。（胃・大腸・肺・乳）

アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援	単 位	CC ・ が ん
宮崎市郡医師会 5月例会特別講演 会しのめ医学会 5月7日(火) 19 00~ 20 00 宮崎観光ホテル	小児外科の最近の進歩と手術手技の進化 九州大学医学研究院小児外科学分野教授 田口 智章	主催 宮崎市郡医師会 ☎ 0985-53-3434	1	9 13
平成 25年度 心臓 検診第一次検討会 (前期) 5月10日(金) 19 30~ 20 30 日向市東臼杵郡 医師会館	症例検討会	主催 日向市東臼杵郡医師 会心臓検診班 後援 日向市東臼杵郡医師会 ☎ 0982-52-0222	1	11 43
宮崎県医師会産業 医部会総会・研 修会 5月11日(土) 14 30~ 18 30 県医師会館	労働安全衛生関係法令 宮崎労働局健康安全課長 大村 孝一 産業医活動の実際 産業医科大学医学部産業保健管理学教授 堀江 正知 基礎研修の後期研修会，生涯研修の更新および専門 研修会 3.5単位	主催 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118	3.5	1 3 4 5 7 8 9

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援	単 位	CC ・ がん
宮崎市郡産婦人科 医会総会 5月例会 5月13日(月) 19 00~ 県医師会館	超音波を使った乳癌検診 読影のポイント まつ婦人科クリニック院長 松 敬文	主催 宮崎市郡産婦人科医会 (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎ 0985-53-3434	1	9 11 乳
宮崎市郡内科医会 総会 学術講演会 5月15日(水) 19 30~ 20 30 宮崎観光ホテル	内科診療で見かける泌尿器科疾患 野崎東病院副院長 小林 隆彦	共催 宮崎市郡内科医会 小野薬品工業(株) 後援 宮崎県泌尿器科医会 (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎ 0985-53-3434	1	9 65
都城市北諸県郡医 師会内科医会学術 講演会 5月16日(木) 18 45~ 20 30 都城ロイヤルホ テル	気分障害(うつ病)と自殺について 大悟病院老年期精神疾患センター長 三山 吉夫	主催 都城市北諸県郡医師会内科医会 共催 Meiji Seika ファルマ(株) (連絡先) 都城市北諸県郡医師会 ☎ 0986-22-0711	1.5	13 69 70
西諸医師会・西諸 内科医会合同学術 講演会 5月16日(木) 19 00~ 21 00 ガーデンベルズ 小林	アレルギー疾患・呼吸器疾患の漢方治療 - 和洋折衷診療が生み出す Potential - メディカルシティ東部病院 総合内科・漢方内科部長 前田 修司	主催 西諸医師会 ☎ 0984-23-2113 西諸内科医会 共催 (株)ツムラ	2	46 73 79 83

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援	単 位	CC ・ が ん
第 6 回宮崎県小児 フォーラム 5月17日(金) 19 00~ 20 30 ガーデンテラス 宮崎ホテル&リ ゾート	小児院内急変対応システムの整備 - TriageとEarly Warning System - 北九州市立八幡病院小児救急センター長 神 菌 淳 司 参加費 500円	主催 宮崎県小児フォーラム 共催 杏林製薬(株) ☎ 0985-27-3301	1.5	10 16 45
江南医療連携の会 特別講演会 5月18日(土) 18 15~ 20 30 社会保険宮崎江南 病院	地域医療学講座がめざすもの - これまでの3年間そしてこれからの1年間 - 宮崎大学医学部地域医療学講座教授 長 田 直 人 参加費 500円	主催 江南医療連携の会 共催 塩野義製薬(株) (連絡先) 社会保険宮崎江南病院 ☎ 0985-51-7575	1.5	13
宮崎県医師会勤務 医部会総会前期講 演会 5月18日(土) 15 30~ 18 00 県医師会館	宮崎県における周産期医療体制の取組み 宮崎大学医学部産科婦人科学分野教授 鮫 島 浩 報道から見た日本の医療 TBSテレビ報道局解説室長 杉 尾 秀 哉	主催 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118	2	3 8 10 13
宮崎市郡外科医会 5月例会 5月20日(月) 19 15~ 20 15 宮崎観光ホテル	進歩し続ける心臓血管外科手術 宮崎大学医学部循環呼吸・総合外科学分野 教授 中 村 都 英	主催 宮崎市郡外科医会 (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎ 0985-53-3434	1	9 84

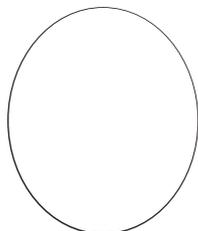
名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援	単 位	CC ・ がん
第 104回児湯カン ファレンス 5月21日(火) 19 00~ 20 30 ホテル四季亭	最近のうつ病の話題とその対応 県立宮崎病院精神医療センター長 橋口 浩志	共催 持田製薬 田辺三菱製薬 吉富薬品 児湯医師会 ☎ 0983-22-1641	1.5	68 69 70
第 12回南那珂感染 対策セミナー 5月21日(火) 18 15~ 20 00 県立日南病院	感染制御の地域連携 産業医科大学副学長・病院長 松本 哲郎	主催 宮崎県立日南病院 大日本住友製薬(株) ☎ 0985-29-5855	1	8 10
平成 25年度 心臓 検診第二次検討会 (前期) 5月23日(木) 19 30~ 20 30 日向市東臼杵郡医 師会館	症例検討会	主催 日向市東臼杵郡医師会 心臓検診班 後援 日向市東臼杵郡医師会 ☎ 0982-52-0222	1	33 44
第 38回宮崎大腸肛 門疾患研究会 - 老健法の研修指 定に基づく大腸癌 研修会 - 5月24日(金) 19 00~ 20 30 県医師会館	排便の生理と病理 - 術後の病態から考える - 潤和会記念病院外科部長 佛坂 正幸 参加費 1,000円(会員コメディカルは無料)	共催 宮崎大腸肛門疾患研究会 武田薬品工業(株) ☎ 0985-24-6763 天藤製薬(株)	1.5	54 55 大腸

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援	単 位	CC ・ がん
第 16回国際個別化 医療学会学術集会 5月 2日(土) 9 00~ 16 15 個別化医療振興 財団(宮崎市)	メインテーマ：パーソナライズド・メディシンの 実践 - アレルギー・がん・認知症の治療戦略 - 個別化医療における機能性食品の役割 国際食品機能学会 細川 淳一 日本の医療・薬事行政と自由診療 食の効能普及全国会議 中嶋 茂 認知症医療の課題と対策 鳥取大学医学部保健学科生体制御学 浦上 克哉 喘息・アレルギーにおける個別化医療の開発と実践 岐阜大学小児病態学 近藤 直実 個別化医療における病理学と病理診断学の役割 宮崎大学医学部腫瘍・再生病態学分野 片岡 寛章 参加費 10,000円(会員・事前登録 8,000円) 12,000円(非会員・事前登録 10,000円) 3,000円(学生会員・事前登録 2,000円)	主催 国際個別化医療学会 ☎ 03-5212-5639	5	2 5 8 9 11 15 82 83
第 12回宮崎県皮膚 科懇話会 第 5 回日臨皮宮崎 県支部会 6月 1日(土) 18 00~ 19 00 県立宮崎病院	こどもの食物アレルギー - 診断と対応について - 国立病院機構熊本医療センター小児科 緒方 美佳	主催 宮崎県皮膚科医会 (連絡先) たじり皮膚科 ☎ 0985-84-1110	1	15
第 32回ひむか運動 器セミナー 6月 5日(水) 19 15~ 20 30 宮崎観光ホテル	腰痛診療ガイドラインに基づいた腰痛診療 - 理想と現実のギャップをどう埋めていくか - 東京大学医学系研究科整形外科学分野准教授 竹下 克志	共催 ひむか運動器セミナー 昭和薬品化工(株) ☎ 03-3567-9585	1	59 60

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援	単 位	CC ・ が ん
宮崎県内科医会総 会・学術講演会 6月8日(土) 16 00~ 19 00 宮崎観光ホテル	救急領域における中枢神経疾患 宮崎大学医学部病態解析医学講座救急・ 災害医学分野教授 落合 秀信 生活習慣病・ステロイド過剰と骨粗鬆症 徳島大学ヘルスパイオサイエンス研究部 生体情報内科学教授 松本 俊夫	共催 宮崎県医師会 宮崎県内科医会 ☎ 0985-22-5118 小野薬品工業(株)	2	2 9 15 73
循環器疾患検討会 特別講演会 6月13日(木) 19 00~ 20 15 宮崎観光ホテル	榊原記念病院における心不全診療体制 榊原記念病院副院長・循環器内科部長 吉川 勉	共催 循環器疾患検討会 エーザイ(株) ☎ 080-5901-4422	1	24 44
第 17回宮崎NST研 究会 6月15日(土) 15 00~ 18 15 県立芸術劇場	在宅訪問看護関連(仮) (株)ケアーズ白十字訪問看護ステーション 代表取締役・統括所長 秋山 正子 参加費 1,000円	共催 宮崎NST研究会 宮崎県プライマリ・ケア研究会 宮崎県栄養士会 宮崎県薬剤師会 (株)大塚製薬工場 ☎ 096-359-1808	1.5	10 13 80
第 66回宮崎整形外 科懇話会 6月15日(土) 18 00~ 19 00 JA A Z M ホール	股関節の instability と in pingem ent の病態と治療 広島大学医歯薬保健学研究院 人工関節・生体材料学講座教授 安永 裕司 参加費 1,000円	主催 宮崎整形外科懇話会 宮崎県整形外科医会 大日本住友製薬(株) (連絡先) 宮崎大学整形外科 ☎ 0985-85-0986	1	57 61
第 5 回宮崎県泌尿 器科一内科連携 の会 6月20日(木) 19 00~ 20 30 宮崎観光ホテル	過活動膀胱治療の最近の知見について(仮) 日本大学医学部泌尿器科学主任教授 高橋 悟	共催 宮崎県泌尿器科医会 宮崎県内科医会 ファイザー(株) (連絡先) 宮崎大学医学部泌尿器科 ☎ 0985-85-2968	1.5	65 67 84

所得補償保険のご案内

診療メモ



命をつなぐドクターヘリ

宮崎大学医学部附属病院 救命救急センター ^{かね}金 ^{まる}丸 ^{かつ}勝 ^{ひろ}弘

はじめに

平成 24年 4月 1日、宮崎県ドクターヘリ(図 1)が運用開始となりました。全国で 29県目、34機目のドクターヘリとなります。

この宮崎県ドクターヘリの配備は、『宮崎県にドクターヘリが必要なのか?』の問い掛けに始まり、時間をかけながら『ドクターヘリとは?』を各地で説き、『FOR MYAZAKI』を合言葉にした仲間が集って、ようやく『実動 1年』に至りました。今後も『宮崎の救急医療の将来』を担うシステムの 1つとして、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

『宮崎県にドクターヘリが必要なのか?』について

救急医療において、宮崎は大きな格差を有します。

まず、救急の最前線で「命をつなぐ」消防救急力に看過できない格差があります。宮崎県内の消防機関はいずれも、他県に比較して圧倒的に少ないマンパワーと少ない救急車で広大な地域をカバーしているのが実状です。医療機関へ重症患者の「命をつなぐ」という救急の初動に、大きな格差を生じてしまうことは容易に想像されます。

さらに重症患者の救命救急センターまでの搬送時間は、東京で約 17分であるのに対し、宮崎は約 72分という報告があります。この地理的格差に加えて、救急専門医数が九州で最低という事情も相まって、重症患者の「命をつなぐ」ことには自ずと格差が生じています。

また忘れてはならないのは、消防救急を有しない町村の存在です。陸続きの地区であり

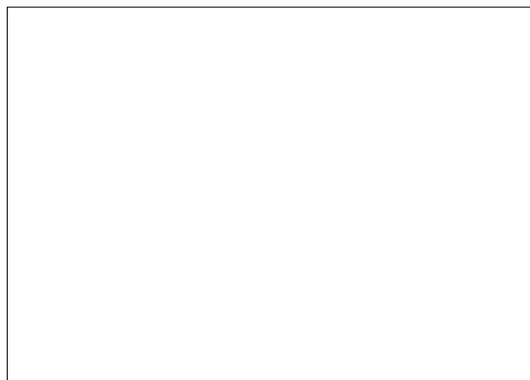


図 1

ながら消防救急が組織されていない地域は、全国的にみても稀であり、県内に 7町村を数えます。この地域では 119番に電話をかけても救急車は来ません。その代わりに、それぞれの町村の役場職員や病院職員の日夜を問わない献身的な対応により救急医療が確保されています。

このように宮崎の救急医療は、多面的に格差を有しており、それはすなわち『命の格差』となっています。他県では助かる命が、宮崎では「命をつなぐ」ことができないがゆえに助けられないことがあるのです。

ドクターヘリならば、救急医療に精通する医師・看護師を救急患者発生現場に迅速かつ広範囲に搬送することが可能となります。これは、救急現場からの早期医療介入を可能とし、「命をつなぐ」ことへの可能性に繋がります。救急医療の格差を少しでも埋めてゆくこと、そのためには必要不可欠なシステムだと考えます。

・『ドクターヘリとは?』について

「救急医療用の医療機器等を装備したヘリコプターであって、救急医療の専門医及び看護師が同乗して救急現場に向かい、現場から医療機関に搬送するまでの間、患者に救命医療を行うことのできる専用のヘリコプター」と定義されます。200年4月に岡山県で本格運行されたのが始まりです。国と県で財政的負担を担い、救命センターに配備し、運航業務に関しては民間企業に業務委託して運用されます。2013年1月現在では34道府県40か所においてドクターヘリが活躍しています。

出動要請は消防機関からのみで、119番通報内容や現場救急隊の観察結果などから緊急性や重症度が高いと消防機関が判断した場合に、ドクターヘリホットラインを通じて出動要請となります。医療機関等の医師にあつては、診察した患者について、より高度な治療もしくは緊急の治療が必要であると判断されたときに、事前のフライトドクターとの打合せ後、管轄消防機関を通じてドクターヘリ出動の要請が可能となります。

出動時はパイロット、整備士、医師、看護師の4人で出動します。傷病者が複数あるいは重症度や緊急度が高い場合には、さらに医師を増員して出動することもあります。救急現場等で患者に必要な観察と処置を行って、状態を安定化させた後にヘリに収容し、病院へ搬送します。ドクターヘリで運ばれたからといって患者本人の負担はありません。ただし、現場やヘリ内で行った診療行為については、診療報酬の定めるところにより患者負担が生じます。

ドクターヘリの魅力はなんと言ってもその機動力です。時速200kmで飛行するため、地上を走行する救急車の約1/3の時間で救急現場に到着することができます。さらに道路の渋滞や災害時に道路が使用不可であっても救急現場に遅滞なく到着できる強みを有しています。しかし、運航は午前8時30分から日没30分前までで、夜間や悪天候下では出動出来ないのが弱点です。

・『For M IYAZAK I』について

「命の格差」となる救急医療の格差を少しずつ埋めていくこと、1人でも多くの患者の「命をつなぐ」こと、これが宮崎県ドクターヘリの

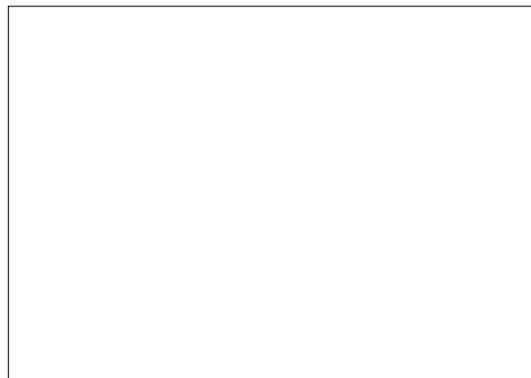


図 2

使命です。その使命を「For M IYAZAK I」の言葉に込めて、ユニフォームにバックプリントし、スタッフ1人ひとりが文字通りに背負って、日々の救急医療に向き合っています(図2)。現在、この「For M IYAZAK I」を背負う救命センタースタッフは、医師18人、看護師48人となりました。フライトDr.やフライトNs.に憧れてわれわれの仲間に入ってくれるスタッフも増え、救急医療のマンパワー不足も解消への兆しがみられ始めました。

・『実動1年』について

昨年(2013年)の4月1日から3月31日までの1年間の運行実績は、出動要請447件でした。そのうち、事故や急病などの救急現場等への出動が195件。病院間搬送が167件。残る85件は、天候不良や時間外、さらには出動中の重複要請などで対応できなかった事案です。

稼働して約1年の宮崎県ドクターヘリですが、ヘリがあったからこそ「命をつなぐ」ことができ、実際に救命できた患者さんもしゃいます。本当にうれしいことです。

・『宮崎の救急医療の将来』について

ドクターヘリの導入で、救急医療の格差が一足飛びに解消されるわけでは当然ありません。ドクターヘリでも夜間や悪天候では飛べないという弱点があります。しかし今年度は、この弱点を補完すべく新しい試みやシステム構築にも取り組む予定です。

将来は、「命の格差」の解消が目標であることは勿論のこと、ドクターヘリが特別な医療ツールではなく、重症患者のための当たり前(当たり前の)救急医療ツールとして広く県内に認めただけのような活動を重ねていきたいと考えています。

お知らせ

平成 25年度春季県医師テニス大会
開催のお知らせ

県医師テニス倶楽部の春季大会を下記のとおり開催します。
県内のテニス愛好の先生方のたくさんの参加をお待ちしています。

日 時 平成 25年 6月 9日(日曜日) 午前 9時 30分開始
場 所 シーガイアテニスアカデミー TEL 0985-21-1311
参加資格 県内の医療機関の医師, 家族, 医療関係者
参加費 4,000円(昼食費込み) 当日集めます。
種 目 ダブルス
当日希望等によりペアや対戦相手を決めます。
(気軽に申し出て下さい)
連絡先 宮永内科クリニック 宮永 省三
TEL 0985-62-5556 FAX 0985-62-5557

宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ

宮崎県医師会では, 県医師会館で開催される講演会・研修会に参加される医師(医師会員でなくても可)のお子様を対象に本会館 1階に臨時的無料託児ルームを設置いたします。県医師会が契約した保育士が対応いたします。

ご利用の場合は, 事前の予約が必要となりますので, ご希望の方は開催日の 2週間前までに県医師会までご連絡ください。

お問合せ先

宮崎県医師会

TEL 0985-22-5118

FAX 0985-27-6550

担当 野尻・小川

バッジ

お知らせ

県医師会から各都市医師会へ送付しました文書についてご案内いたします。詳細につきましては、会員専用ページをご覧ください。また、M M A 通信(県医師会から会員への情報提供メーリングリスト)でも本文書について随時ご案内しておりますので、まだご登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。

会員専用ページへのアクセス方法

宮崎県医師会 (<http://www.miyazaki.med.or.jp/>) にアクセス

県医師会ホームページ右下の「会員専用ページ」をクリック

ユーザー名 医籍登録番号を入力

パスワード 生年月日(西暦の下二桁と月日)を入力(初期設定)

例) 1950年 11月 2日生まれの場合, 501102

M M A 通信への登録をご希望の方は、県医師会地域医療課までご連絡ください

(TEL 0985-22-5118)。

送付日	文 書 名
3月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・公知申請に係る事前評価が終了し、薬事法に基づく承認事項の一部変更承認がなされた医薬品の保険上の取扱いについて ・使用薬剤の薬価(薬価基準)の一部改正等について ・重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の症例のまとめについて
3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・麻しんに関するガイドラインについて ・腸内細菌科のカルバペネム耐性菌について ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく結核患者の届出等について ・精神疾患等の合併症を有する結核患者の医療提供体制について ・「宮崎県感染症発生動向調査事業実施要綱」の一部改正について ・「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」の一部改正について(通知) ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行等について(通知) ・保険証記号番号の変更について(通知) ・医療法人設立許可基準の一部改正について(通知)
4月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・麻しん風しん第3期、第4期の定期予防接種の終了について
4月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康づくりのための身体活動基準2013」及び「健康づくりのための身体活動指針(アクティブガイド)」について ・独立行政法人福祉医療機構の貸付利率の改定について
4月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・特定感染症検査等事業実施要綱等の改正について ・地球温暖化防止対策(クールビズ)の実施について
4月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度日本医師会会費徴収について ・日本医師会会費減免の手続きおよび会費減免をうけるA、A(B)、A(C)会員の医賠償保険加入の手続きについて ・看護学生実習の国民向けPRの周知について(協力依頼) ・中国におけるインフルエンザA(H7N9)の患者の発生について ・中国における鳥インフルエンザA(H7N9)の患者の発生について

送付日	文 書 名
4月6日	・予防接種法の一部を改正する法律の施行等について
4月8日	・「平成 25年度歯と口の健康週間」について ・中国における鳥インフルエンザA(H7N9)の発生状況等に関する情報提供について
4月9日	・警察等が取り扱う死体の死因又は身元の調査等に関する法律の施行について ・東日本大震災に対処するための要介護認定有効期間および要支援認定有効期間の特例に関する省令の一部を改正する省令の施行について ・「病原微生物検出情報」,「病原微生物検出情報(普及版)」の送付について
4月12日	・独立行政法人福祉医療機構の貸付利率の改定について ・中国における鳥インフルエンザA(H7N9)感染の対応について ・国民年金・厚生年金保険障害認定基準の一部改正及び一部改正に伴う診断書の項目改正について ・「地域包括支援センターの設置運営について」の一部改正について ・「介護サービス情報の公表」制度の施行について」の一部改正について ・介護職員初任者研修課程の実施等に伴う告示および通知の改正について ・「食中毒処理要領」及び「食中毒調査マニュアル」の改正について
4月13日	・被爆者健康手帳の無効について(通知)
4月15日	・平成 25年度「看護の日」および「看護週間」について
4月16日	・内閣官房「中国における鳥インフルエンザ(H7N9)感染の対応について」(平成 25年 4月 12日現在) ・内閣官房「中国における鳥インフルエンザ(H7N9)感染の対応について」(平成 25年 4月 15日現在)
4月17日	・一般用漢方製剤の添付文書等に記載する使用上の注意の一部改正について ・中国における鳥インフルエンザA(H7N9)の国内検査体制について

.....

あなたできますか？(解答)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
a, c	b	e	e	c, d	a	d	c	a	c



5月から広報委員会に医学生3人の新メンバーが加わりました。毎年この時期の適度な緊張感は心地良いものですが、一方では何かとストレスの多い時期でもあります。期せずして思い知るようになった「健康のありがたさ」と、ストレスの中で私にとって大きな転機となった「スマホ導入論」をご紹介したいと思います。携帯電話がポケベルの延長でしかなかった私も、長女の大学進学を機に「お揃い」でスマホ (iPhone 5) に機

種変更しました。無料のテレビ電話機能や音声入力によるメール機能に感心しつつも特に感動があったわけではありませんが、2週間ほど経過したある日「転機」が訪れました。かつて経験したことのない「痛み」が私の世界の中心をリビングのソファに設定してしまい、身動きがとれない状態で途方に暮れる私の傍らに iPhone.. (笑)。職場の PC から隔離された私はスマホ関連の知識をスポンジが水を...の如く吸収し、「携帯端末」ならではの WiFi 接続やメール管理一元化の利便性、位置情報を利用したアプリの楽しさ、クラウドによる PC と携帯端末の同期など、最新技術の大衆化に感激し、ビジネスやプライベートで手放せない「神ツール」を手に入れた幸運に感謝することになったのです。実は「怪我の功名」はこれだけではありません。まともにベッドで寝ることすらできず絶望感とともに過ごした3週間が、「痛みとストレス」の奇妙な相関関係を体験させてくれる滅多にない(もう二度と御免ですが...)機会になりました。現在モルセットを装着し、プレガバリン製剤と弱オピオイド製剤を併用する私が強がりつつも、この話はまた次の機会に...

(尾田)

* * * * *

新しい年度を迎えて広報委員会のメンバーにも一部変更がありました。特に医学生の委員が3人入れ替わり、フレッシュな風を吹き込んでくれています。いいですね、若い人の意見は。「そうそう私にもそんな時代があった」と懐かしく思うこともありますが、むしろ「えっ」と驚いたり、「ハッ」と気がついたり、私の錆びついた思考回路に良い刺激になっています。消費税や TPP の問題を彼らがどんなふうにか考えるか、これからのディスカッションが楽しみです。(上野)

* * * * *

今年の桜は開花が早く宮崎で花見は出来なかった。4月の初旬の富山は満開とのこと。花見のためではないが研究会と飲み会をするとのこと、あの爆弾低気圧のあった4月6日に宮崎を出たが、羽田空港で乗り継ぎ便が欠航となり日帰りで宮崎に帰った。とんだ花見であった。今月号にドクターヘリの話が載っていた。以前から何で昼しか飛ばないのかなーと思っていたが納得した。宮崎の命をつなぐ強いツールにも弱点はある。弱点を補完してよりよいシステムを構築することが宮崎の医療に求められているのでは。(篠原)

* * * * *

日本呼吸器学会総会に出席し、発表してきました。ポスターを張りながらあたりを見回すと、みな当然ながら所属は「病院呼吸器科」、「大学呼吸器内科」、「」。ちなみに県立宮崎病院には標榜科としての呼吸器内科はありませんので、内科、姫路大輔 et al., と相成ります。ちなみに県立三病院いずれにも標榜科としての呼吸器内科はありません。ないからといって専門的治療ができないわけではなく、私も含め呼吸器専門医がそれぞれ在籍し、専門的な呼吸器診療が行われています。しかし標榜科がないと、患者さんにはわかりにくいかもしれません。

最新の統計(平成23年度)では、日本人の死因の一位ががん、その中で死亡数が一番多い疾患が肺がん、3位が肺炎(脳血管障害を上回りました)です。呼吸器疾患の社会、医療へ与える影響は非常に大きく、

呼吸器疾患の重要性が叫ばれる中、呼吸器疾患の認知度向上、若手専門医育成など、われわれ呼吸器専門医のさらなる努力が必要です。また、県をはじめ行政にも呼吸器疾患の重要性を認識していただきたく思います。(姫路)

* * * * *

今年度より広報委員会で学生委員を務めさせていただくことになりました。いよいよ今春から病院での臨床実習も始まり、医師への道もさらに近づき期待と不安でいっぱいの日々を過ごしております。広報委員会の議題は、普段大学の講義では聞くことがないものが多く、とても良い刺激となり勉強になります。少しでも宮崎県の医療に貢献できまよう精一杯頑張りますのでどうぞよろしく願っています。(明里)

* * * * *

こんにちは、今年度から学生広報委員を務めさせていただくことになりました、宮崎大学医学部4年生の川上勲と申します。4年生ではあまり得られない、「医師の皆様と話し合う機会」をいただき、緊張しながらも、ためになるお話を聞かせていただいています。学校生活では授業が臨床中心となり、部活動は新入部員を迎えての活動が始まりました。新たな生活に戸惑いながらも、楽しみながら励んでいこうと思っています。(川上)

* * * * *

往診されている先生で、駐車場がなくお困りのことがあると思います。そこで駐車禁止除外指定車証明書というものがあることをお知らせします。最寄りの警察署に前もって電話でお問い合わせください。宮崎市の場合は医師免許証、車検証、運転免許証、それぞれコピー2部、認印を警察署に提出しますと、警察から連絡がきます(約2週間後)ので認印を持ってもらいに行きます。有効期間は発行日から3年です。(青木)

* * * * *

今 月 の ト ピ ッ ク ス

日州医談 在宅医療の推進と多職種協働

国は2012年を「在宅医療元年」と位置づけ、多職種協働による支援体制の構築が急務となっています。在宅医療を推進する背景や地域包括ケア体制確立のための取組みを、県医師会在宅医療協議会発足の経緯を踏まえて、牛谷義秀常任理事がわかりやすく解説してくださいました。是非ご一読ください。 4ページ

お知らせ 「はまゆう随筆」原稿募集

日州医事7・8月号に毎年夏の恒例となりました「はまゆう随筆」欄を企画します。今回もテーマは設定せず、診療閑話、趣味、旅行記、スポーツ談義、詩、短歌、俳句など何でも結構です。皆様のご寄稿を心よりお待ちしております。 50ページ

診療メモ 命をつなぐドクターヘリ

平成24年4月1日、宮崎県ドクターヘリが運用開始されました。宮崎県には救急の最前線において看過できない地域格差が存在します。それはすなわち「命の格差」であり、効率論以前に「命をつなぐ」救急搬送システムの構築が求められています。ドクターヘリの実動1年を振り返り、宮崎県救急医療の将来について金丸勝弘先生が述べてくださいました。会員の先生方のご理解とご支援をお願いいたします。 64ページ

日 州 医 事 第 765号 (平成 25年 5月号) (毎月 1回 10日発行)

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会
〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10 番地 0985-22-5111(代)・FAX 27-6550
<http://www.iyazakimed.or.jp/> E-mail:office@iyazakimed.or.jp

代表者 稲 倉 正 孝

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 尾田 朋樹・副委員長 上野 満, 黒川 基樹

委 員 篠原 立大, 姫路 大輔, 明里 知美, 川上 勲

釜付 弘志, 沖田 和久, 大野 妙子, 陣門 洋平, 原尾 拓朗

担当副会長 富田 雄二・担当理事 青木 洋子, 荒木 早苗

事 務 局 学術広報課 瀬戸山千春, 久永 夏樹

印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350円 (但し、県医師会員の講読料は会費に含めて徴収してあります)

ナガイレーベン 白衣キャンペーン

定価の 3 5 % OFF !!

期間 4 月 1 日(月) ~ 5 月 20日(月)

期間後は通常価格(25%OFF)となります。

ナガイレーベン製品

(白衣 , キャップ , カーディガン等)

シューズは通常通り 25%OFF です

施設用カタログもございます。

(施設用カタログをご希望の場合はお電話下さい)

キャンペーン期間中の返品はご遠慮願います。

(サイズ交換のみとなりますのでご了承下さい)

お申込み・お問合せは

宮崎県医師協同組合へ

TEL(0985)23-9100・FAX(0985)23-9179

ご注文は裏ページ(白衣注文書)を FAX ください

25年春季キャンペーン

ナガイレーベン 白衣注文書

宮崎県医師協同組合 行

FAX 0985 -23 -9179

商品番号	色	サイズ	数量	備考

医療機関名

注文者 病医院注文・個人注文()

(○表示。個人注文はフルネームでご記入下さい)

送り先住所

TEL

組合員の皆様へ

(平成 25年度)

リースの斡旋について

医協がリースの斡旋を行っています。

医療経営を医協がご支援いたします!!

- ・ 医協が組合員・事務長様と一緒に交渉いたします。
- ・ リース見積りは複数社から取り，見積金額，リース内容・条件，アフターケアの比較検討をお勧めします。
- ・ リース契約時は，医協担当者が立ち合い，契約内容の確認，リース期間満了後の取扱い等でのトラブル防止に努めています。
- ・ リース，ローン，現金購入の違いについてのご説明もいたします。

(リース取組みの流れ)

あらゆる機械 (医療機器・事務機器・車等) が対象で 30万円程度から お受けします。まず購入物件の見積書をメーカー (ディーラー) からお取り寄せください。

お取り寄せいただいた見積書を医協へ FAX ください。

(FAX 番号 0985-23-9179)

お送りいただいた見積書によりご希望のリース会社 (医協提携リース会社 日医リース，日立キャピタル，宮銀リース，リコーリース) から医協がリース見積書を取ります。

およそ 1週間程度でリース会社のリース見積書を回答いたします。

まず医協へお電話下さい!!

●お問い合わせ

宮崎県医師協同組合(リース担当)

TEL(0985)23-9100・FAX(0985)23-9179

